

## 第5次南砺市子ども読書活動推進計画 第1回策定委員会

日 時：令和6年8月5日（月）午前10時～

場 所：南砺市役所 別館3階大ホール

- 1 委嘱書交付
- 2 開会のあいさつ（教育長）
- 3 委員自己紹介 . . . . . 資料1
- 4 委員長・副委員長の選出について  
（参考：策定委員名簿、策定委員会設置要綱）
- 5 委員長あいさつ
- 6 協議事項  
第5次南砺市子ども読書活動推進計画について . . . . . 資料2
  - (1) 策定委員会の目的
  - (2) 第4次推進計画における成果と課題
  - (3) 第5次計画の体系説明
- 7 今後のスケジュールについて
- 8 閉会のあいさつ（副委員長）

## 第5次南砺市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

## 【委員】

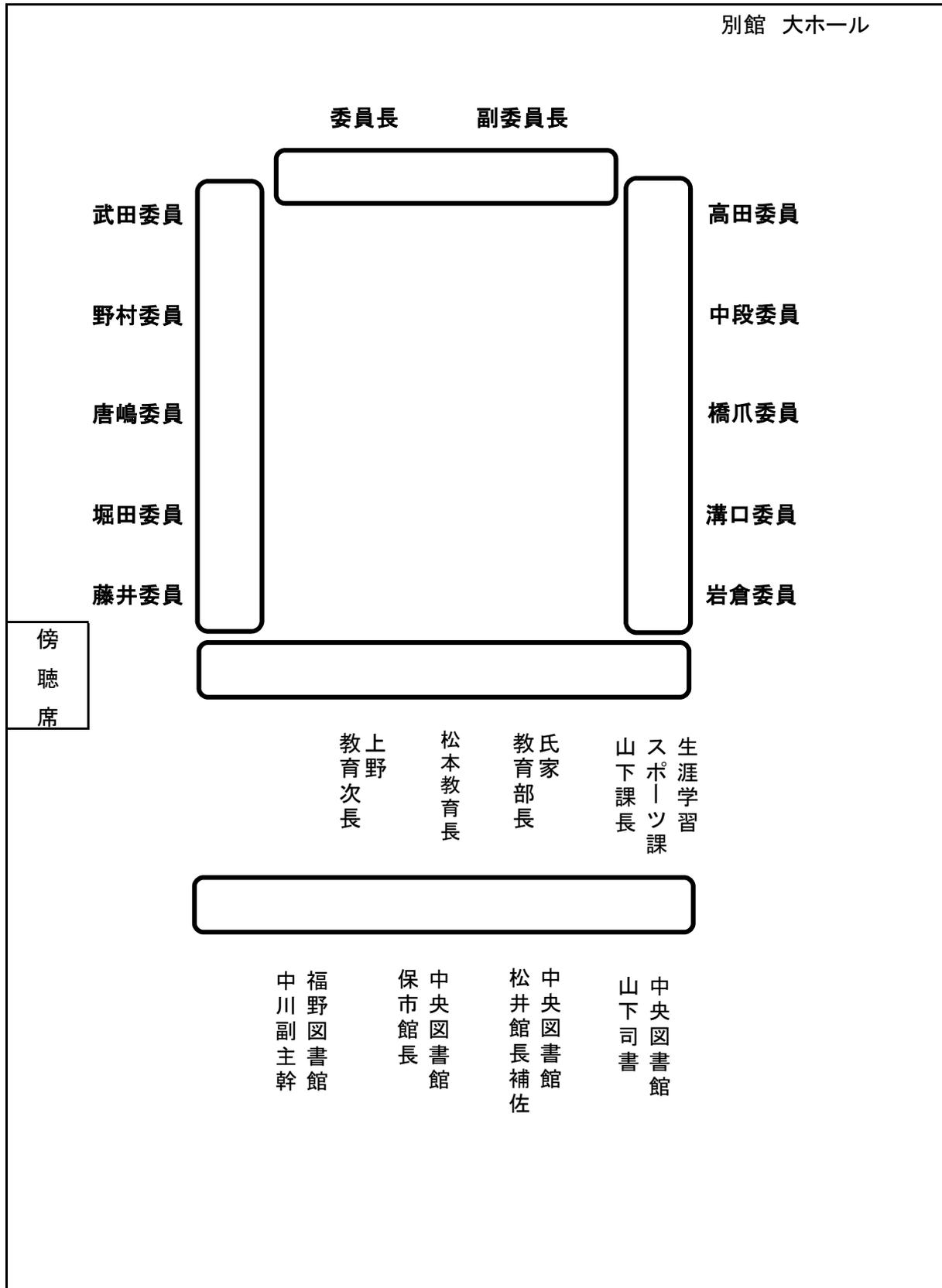
No.	氏名	所属	摘要
1	武田 和一	南砺市社会教育委員 代表	
2	高田 公美	南砺市小学校長会 代表	
3	野村 由佳里	南砺市中学校長会 代表	
4	中段 久美子	南砺市立保育園 代表	
5	唐嶋 田鶴子	認定こども園 代表	
6	橋爪 央樹	南砺市PTA連絡協議会 代表	
7	堀田 蘭湖	読み聞かせボランティアグループ 代表	
8	溝口 恵美子	公募	
9	藤井 美穂	公募	
10	岩倉 安世	公募	

## 【事務局】

No.	氏名	所属	摘要
1	松本 謙一	南砺市教育長	
2	氏家 智伸	南砺市教育部 部長	
3	上野 容男	南砺市教育部 次長(教育総務課 課長)	
4	山下 真人	南砺市教育部 生涯学習スポーツ課 課長	
5	保市のり子	南砺市立中央図書館 館長	
6	松井 環	南砺市立中央図書館 館長補佐	
7	中川 美穂	南砺市立福野図書館 副主幹	
8	山下 瞳	南砺市立中央図書館 司書	

第5次南砺市子ども読書活動推進計画 第1回策定委員会

別館 大ホール



## 第5次南砺市子ども読書活動推進計画策定委員会 設置要綱

(目的)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律の趣旨に基づき、南砺市における子どもの読書活動をより一層推進するため、第4次南砺市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の事務を所掌する。

- (1) 第5次南砺市子ども読書活動推進計画の策定に関すること。
- (2) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する

2 委員は、次に掲げる者のうちから、南砺市教育委員会が委嘱する

- (1) 社会教育委員代表者
- (2) 学校・保育園・認定こども園・PTAの代表者
- (3) 子どもの本に関わる各種団体代表者
- (4) 公募による者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から令和7年3月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は委員の互選とし、会務を統括する。
- 3 副委員長は、委員長が指名し、委員長を補佐し、委員長に事故のあるときは、その職務を代行する。
- 4 委員会は、委員長がその議長となる。

(設置期間)

第6条 委員会の設置期間は、設置の日から策定の日までとする。

(招集等)

第7条 委員会は、委員長が招集する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、南砺市立中央図書館において担当する。

(補足)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

## 第5次南砺市子ども読書活動推進計画の策定について (令和7年度～令和11年度)

### 1. 目的

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである。

令和4年3月に策定した第4次推進計画では、子どもの発達段階に応じた読書活動の推進と、家庭・地域、市立図書館、学校や社会全体における読書活動の推進を基本方針として取り組んできた。

計画期間が5年毎の令和8年3月で終了する予定となっているが、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(R5.3)及び県の「第五次富山県子ども読書活動推進計画」(R6.3)の策定及び、南砺市は、デジタル田園都市国家構想交付金を利用した図書館デジタル化推進事業や、1歳の誕生に絵本を2冊プレゼントする「なんと！バースデーブック事業」により、令和6年度から図書館の体制が変更したことから、第5次の計画を策定するもの。

### 2. 第4次推進計画における「具体的な方策」での主な成果・課題 (2/5年)まで

#### (1) 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進

- 〈成果〉ア 図書館協議会で提案のあった、1歳の誕生を迎えた児童に絵本を2冊プレゼントする事業「なんと！バースデーブック事業」を開始し、家庭での読書のきっかけづくりに貢献した。
- イ 地域の高等学校と連携し、図書館でのイベントや、地域の保育園や小学校への読み聞かせを実施し、読書の楽しさを伝えた。
- 〈課題〉ア なんと！バースデーブック事業の、進捗率は75%止まりであった。
- イ 小学生、中学生、高校生と学年段階が進むにつれて、不読率が高くなる。
- ウ 生まれてからの読書の蓄積は、将来の読書習慣につながるため「読書履歴・記録」を活用していく必要がある。

#### (2) 家庭・地域、図書館、学校等を通じた社会全体での取り組みの推進

##### (2) -① 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

- 〈成果〉ア 親子でいっしょに楽しむことができるイベント「絵本ライブ」を継続して開催し、毎年好評である。
- イ 保育園等や児童館では、なんとみらい文庫を活用して、絵本、児童書や子育て本を貸出し、家庭での読書のきっかけづくりに努めた。
- ウ 保育園等で、高校生によるおはなし会を開催した。
- エ 地域の身近な施設として、夏・冬休み子ども教室を利用して、「夏・冬休み移動図書館」を実施し、地域の子どもたちに読書の大切さを伝えた。
- 〈課題〉ア なんとみらい文庫は、全家庭で利用されていない。

##### (2) -② 市立図書館における子どもの読書活動の推進

- 〈成果〉ア 計画的に本の除籍を行っている。
- イ 乳幼児期、小、中・高校生向けにおすすめ本リストを定期的に発行し、読書の大切さを伝えている。
- ウ 南砺市型学校司書モデル事業を拡充し、学校司書と市立図書館司書との連携を強化した。
- 〈課題〉ア 子どもへの読書環境の整備が十分とはいえない。
- イ 連携が図られていない関係機関が一部ある。
- ウ 子ども向けのホームページの充実が図られていない。

##### (2) -③ 学校における子どもの読書活動の推進

- 〈成果〉ア 児童生徒の1人当たりの月平均学校図書館貸出冊数は、少しずつ増加している。
- イ 南砺市型学校司書モデル事業を拡充し、学校司書のサポートを行った。

- 〈課題〉ア 学校図書館と市立図書館のネットワーク化に取り組む。  
イ 読書の励みのひとつである「読書履歴・記録」を活用していく必要がる。

(2) -④ 社会全体における子どもの読書活動の推進

〈成果〉ア 市内の保育園、子育て支援センターや小学校でおはなし会を実施し、本に親しむ機会を提供している。

〈課題〉イ 読み聞かせボランティアグループの高齢化が進み、今後、後継者が不足している。

### 3. 計画期間

- ・令和7年度～令和11年度

### 4. 基本方針

#### 〈南砺市(第5次) 令和7年3月策定予定〉

- (1) 全ての子どもたちの読む喜びを育む取組の推進
  - ① 発達段階に応じた多様な子どもたちの読書活動の推進
- (2) 家庭・地域・図書館・学校等を通じた社会全体での取組の推進
  - ① 家庭・地域における子どもの読書活動の推進
  - ② 市立図書館における子どもの読書活動の推進
  - ③ 学校における子どもの読書活動の推進
  - ④ 社会全体における子どもの読書活動の推進

#### 参考

#### 〈国(第5次) 令和5年3月策定〉

- (1) 不読率の低減
- (2) 多様な子どもたちの読書機会の確保
- (3) デジタル社会に対応した読書環境の整備
- (4) 子どもの視点に立った読書活動の推進

#### 〈富山県(第5次) 令和6年3月策定〉

- (1) 全ての子どもたちの読む喜びを育む取組の推進
- (2) 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での取組の推進

### 5. 計画策定までのスケジュール(予定)

#### 令和6年

- |           |               |   |
|-----------|---------------|---|
| ・ 8月5日(月) | ・ 第1回策定委員会    | 概要説明、策定スケジュール等の説明、<br>第4次計画の検証、第5次計画の体系説明 |
| ・ 10月     | ・ 第2回策定委員会    | 計画案の協議                                    |
| ・ 11月     | ・ 南砺市教育委員会    | 計画案の承認                                    |
| ・ 11月     | ・ 南砺市議会 全員協議会 | 計画案の説明                                    |

#### 令和7年

- |      |                   |            |
|------|-------------------|------------|
| ・ 1月 | ・ 第3回策定委員会        | 計画案の協議     |
| ・ 2月 | ・ パブリックコメントの実施    |            |
| ・ 3月 | ・ 南砺市教育委員会に計画案の承認 |            |
| ・ 3月 | ・ 南砺市議会 全員協議会     | 推進計画の説明・報告 |
| ・ 3月 | ・ 計画書の公表          |            |

### 3 計画の体系

#### 第4次南砺市子ども読書活動推進計画体系

子どもの読書活動の推進のため、目指すべき方向を、次の2つの基本方針とし、その具体的な方策、更はその基本施策に基づき推進します。



### 3 計画の体系

#### 第5次南砺市子ども読書活動推進計画体系

子どもの読書活動の推進のため、目指すべき方向を、次の2つの基本方針とし、その具体的な方策、更はその基本施策に基づき推進します。



# 参考資料

8/5 の会議では議論はしません。後日 (8/31 まで) に、意見書にてご意見をお願いします。

## 第5次南砺市子ども読書活動推進計画 具体的方策案 (R6.8.5現在)

推進計画 (令和4年3月策定)	推進計画 (第5次案)	摘要 (担当部署)
<p><b>1 計画の見直しにあたり</b></p> <p>子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであり、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要です。</p> <p>国は、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、翌年14年には、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念とする計画を定め、家庭・地域、学校等の連携・協力を重視した施策に取り組んでいます。</p> <p>平成30年4月には第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、これを受け、富山県では平成31年3月に、第四次「富山県子ども読書活動推進計画」を策定・公表しました。その中では、家庭・地域、学校等においてさまざまな取り組みが行われ、一方では、依然として読書習慣の形成が十分でないなどの課題があります。</p> <p>近年、スマートフォン等の普及や、それを活用したSNS等コミュニケーションツールの多様化等、子どもを取り巻く情報環境が大きな変化をみせており、これらは、子どもの読書環境にも大きな影響を与える可能性があります。また、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの図書館が閉館となり、電子書籍を活用した読書のあり方についても関心が高まっているところです。</p> <p>南砺市においても、平成29年3月に「南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)」を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。また、令和2年3月には、「第2次南砺市教育振興基本計画」が策定され、子ども</p>	<p><b>1 計画の見直しにあたり</b></p> <p>子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであり、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要です。</p> <p>国は、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、翌年14年には、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、<u>全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念とする計画を定め、家庭・地域、学校等の連携・協力を重視した施策に取り組んでいます。</u></p> <p><u>令和5年3月には第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、これを受け、富山県では令和6年3月に、第五次「富山県子ども読書活動推進計画」を策定・公表しました。その後、おおむね5年ごとに計画を変更し、子どもの読書活動を継続的に推進しています。</u></p> <p><u>しかし、依然として、小学生、中学生、高校生と学年段階が進むにつれて不読率が高い傾向にあることや、学校図書館図書標準を達成している学校数の割合は向上してきているものの、一層の達成促進が望まれること等が課題になっています。</u></p> <p><u>近年、「読書バリアフリー法」の制定、「第6次学校図書館図書計画」の策定を通じ、子どもの読書環境の整備が進められています。一方で、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、GIGAスクール構想による学校のICT環境の整備等により、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、子どもの読書活動にも影響を</u></p>	<p>中央図書館</p> <p>国(第5次) 県(第5次)</p>

の読書活動の推進について取り上げています。現在、市内のほとんどの子どもが市立図書館の共通利用カードを持ち図書館を利用し、保育園等や児童館への団体貸出を通じて絵本等を家庭へ貸し出しする「なんとみらい文庫(団体貸出)」によって、家庭での読書の大切さや、家読(うちどく)を推進しています。

南砺市は、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定されました。「SDGs」の目標である教育の観点では、「すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」とあり、子どもの読書活動の推進と密接な関わりがあります。

この度、国及び県の第4次計画を受け、子どもの読書活動をより一層推進し、子どもの健やかな成長に資するよう、南砺市の第3次計画の基本的な考えを引き継ぎ、今後5年間(令和4年度～令和8年度)を実施期間とし、「第4次南砺市子ども読書活動推進計画」を策定します。

## 2 第3次推進計画期間における主な成果

- ①南砺市立図書館で開催している特別なおはなし会「絵本ライブ」は、親子で一緒に楽しむことのできるイベントで、毎年好評である。
- ②図書館協議会からの提案の「なんとみらい文庫(団体貸出)」(保育園等で絵本を園児に貸し出すサービス)を保育園等と連携し、家庭での読書のきっかけづくりに貢献した。
- ③子育て支援センターでは、高校生がおはなし会を開催し読書の楽しさを伝えた。
- ④保健センターでは、乳幼児健診時に保健師が絵本を選ぶポイントや子どもの興味関心に沿った読み聞かせ方を個別に助言した。

与えている可能性もあります。

南砺市においても、令和4年3月に「第4次南砺市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。また、令和2年3月には、「第2次南砺市教育振興基本計画」が策定され、子どもの読書活動の推進について取り上げています。

現在、市内のほとんどの子どもが市立図書館の共通利用カードを持ち図書館を利用し、保育園等や児童館への団体貸出を通じて絵本等を家庭へ貸し出しする「なんとみらい文庫(団体貸出)」や、学校ではGIGAスクール構想による一人1台タブレットを利用して本を受け取ることができる「なんと！ぐるっと巡回本サービス」によって、読書の大切さを伝えています。

南砺市は、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定されました。「SDGs」の目標である教育の観点では、(全ての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する)とあり、子どもの読書活動の推進と密接な関わりがあります。

この度、国及び県の第5次計画を受け、子どもの読書活動をより一層推進し、子どもの健やかな成長に資するよう、南砺市の第4次計画の基本的な考えを引き継ぎ、今後5年間を実施期間とし、「第5次南砺市子ども読書活動推進計画」を策定します。

## 2 第4次推進計画期間における主な成果

- ①図書館協議会で提案のあった、1歳の誕生を迎えた児童に絵本を2冊プレゼントする事業「なんと！バースデーブック事業」を開始し、家庭での読書のきっかけづくりに貢献した。
- ②地域の高等学校と連携し、図書館でのイベントや、地域の保育園や小学校への読み聞かせを実施し、読書の楽しさを伝えた。
- ③親子でいっしょに楽しむことのできるイベント「絵本ライブ」を継続して開催し、毎年好評である。
- ④保育園等や児童館では、なんとみらい文庫を活用して、絵本、児童書や子育て本を貸出し、家庭での読書のきっかけづくりに努め

南砺市

中央図書館

- ⑤交流センターでは、夏・冬休み子ども教室を利用し、市立図書館から「おはなし会」や「移動図書館」を実施し、地域の子どもたちに読書の大切さを伝えた。
- ⑥児童館では、「児童館なんとみらい文庫(団体貸出)」を開始し、図書の充実と家庭での読書の大切さを伝えた。
- ⑦新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館中の予約本の貸し出しについて、小・中学生とその保護者にチラシやホームページ等で啓発し、利用を促した。
- ⑧「南砺市視聴覚ライブラリー」を中央図書館で運営し、学校の授業等に役立てた。また児童館や放課後児童クラブでの利用につなげた。
- ⑨市立図書館から学校図書館へ司書を派遣する「南砺市型学校司書モデル事業」を開始し、学校図書館の利用増加や司書教諭の負担軽減を図った。
- ⑩学校では、「ファミリー読書の日」や「ノーゲームデー」を実施し、家庭での読書の大切さを伝えた。
- ⑪福光・吉江・城端中学校に「YAみらい文庫(団体貸出)」を開始し、子どもたちへ本の魅力を知ってもらい、図書館の利用や読書の習慣を促した。
- ⑫市内県立高等学校に、「青少年向け新着図書一覧」を配布し、高校生の図書館利用を促した。

### 3 計画の体系

#### 第4次南砺市子ども読書活動推進計画体系

子どもの読書活動推進のため、目指すべき方向を、次の2つの基本方針とし、その具体的な方策、更にその基本施策に基づき推進します。

- た。
- ⑤保育園等で、高校生によるおはなし会を開催した。
- ⑥地域の身近な施設として、夏・冬休み子ども教室を利用して、「夏・冬休み移動図書館」を実施し、地域の子どもたちに読書の大切さを伝えた。
- ⑦計画的に本の除籍を行っている。
- ⑧乳幼児期、小、中・高校生向けに おすすめ本リストを定期的に発行し、読書の大切さを伝えている。
- ⑨南砺市型学校司書モデル事業を拡充し、学校司書と市立図書館司書と連携した。
- ⑩児童生徒の1人当たりの月平均学校図書館貸出冊数は、少しずつ増加している。
- ⑪南砺市型学校司書モデル事業を拡充し、学校司書のサポートを行った。
- ⑫市内の保育園、子育て支援センターや小学校でおはなし会を実施し、本に親しむ機会を提供している。

### 3 計画の体系

#### 第5次南砺市子ども読書活動推進計画体系

子どもの読書活動推進のため、目指すべき方向を、次の2つの基本方針とし、その具体的な方策、更にその基本施策に基づき推進します。

中央図書館  
(国第5次)  
(県第5次)

基本方針	具体的な方策	基本施策
(1)子どもの発達段階に応じた読書活動の推進	(1)子どもの発達段階に応じた読書活動の推進	ア 乳幼児期(0歳から6歳まで)における読書活動の推進 イ 学童期(6歳から12歳まで)における読書活動の推進 ウ 学生期(12歳から18歳まで)における読書活動の推進 エ 高校生期(18歳から22歳まで)における読書活動の推進
(2)家庭・地域、図書館、学校等を通じた社会全体での取り組みの推進	(2)-① 家庭・地域における子どもの読書活動の推進	ア 家庭における読書活動の推進 イ 図書館・施設子ども館における読書活動の推進 ウ 図書館・子育て支援センターにおける読書活動の推進 エ 児童センターにおける読書活動の推進 オ 青少年センターにおける読書活動の推進
	(2)-② 自立図書館における子どもの読書活動の推進	ア 読書ボランティアの養成 イ 図書館資料の充実 ウ 読書の楽しさを伝える活動の展開 エ 読書の楽しさを伝える活動の展開 オ 読書ボランティアの養成 カ 図書館ネットワークの強化
	(2)-③ 学校における子どもの読書活動の推進	ア 読書活動の展開 イ 学校図書館管理職員の育成 ウ 学校図書館資料の充実 エ 学校図書館の経営管理システム化 オ 学校における読書推進の充実 カ 関係機関との連携
	(2)-④ 社会全体における子どもの読書活動の推進	ア 地域ボランティアの育成 イ 地域の読書文化

## 4 計画における基本方針

子どもは、読書を通して多様な考えや表現に触れ、知識を得ます。多くの本を読むことで、言葉や感性が豊かになり、自分自身の考えを深め、表現する力がつきます。

このことは人格を形成するために重要な役割を果たし、社会の中で自分らしく生き、個々の能力を伸ばすことにつながるため、社会の発展に寄与するものです。

また、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむことができるよう、大人が子どもの読書に関心と理解を深め、家庭・地域、図書館、学校等を通じた社会全体で子どもの自主的な読書活動を推進するため、次の2つを基本方針として取り組みます。

## 4 計画における基本方針

子どもは、読書を通して、読解力、想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、心に残る名作等の文学作品に加え、自然科学・社会科学関係の書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通して、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探究心や真理を追求する態度が培われます。

全ての子どもたちが、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校・図書館等の連携を深め、積極的にそのための環境の整備を推進し実現するために、次の2つを基本方針として取り組みます。

中央図書館  
(国第5次)  
(県第5次)

## (1)子どもの発達段階に応じた読書活動の推進

子どもの自主的な読書を推進するためには、乳幼児期から子どもの発達段階に応じ、読書の楽しさを伝え、読書の幅を広げ、読書体験を深めるような機会を提供することが重要です。

また、小学校から中学校、中学校から高等学校等、学校種間の接続期において生活の変化等により子どもが読書から遠ざかる傾向がみられることに留意し、学校種間の連携による切れ目のない取り組みが行われることが期待されます。

このような観点から、子どもたち一人一人の発達や読書体験に留意しつつ、家庭・地域、図書館、学校等において、子どもの発達段階に応じた読書活動の推進に努めます。

## (2)家庭・地域、図書館、学校等を通じた社会全体での取り組みの推進

子どもの読書習慣は日常の生活を通じて形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ継続して行われるよう、家庭・地域、図書館、学校等が連携・協力し、読書に親しむ機会の充実に向け、社会全体で取り組むことが必要です。

家庭・地域では、子どもに合った本が身近にあり読み聞かせること、本に関する話を子どもにすること、大人自身が読書を楽しむ姿を見せること等、子どもの読書環境の整備が大切です。

市立図書館は、子どもが学校以外でさまざまな本と出合える場所で、読書活動の中核的な役割を果たすことが期待されています。

学校では、子どもの読書活動を支援し、読書指導の充実を図り、読書の量を増やすことのみならず、子どもの読書に対する興味関心を高めていくことが求められています。

このような観点から、家庭・地域、図書館、学校等がそれぞれ担うべき役割を果たすとともに、関係機関が密接に連携・協力して、社会全体で子どもの自主的な読書活動の推進を図る取り組みを進めます。

## (1)全ての子どもたちの読む喜びを育み取組の推進

子どもの頃に、読むこと自体の楽しさ、それによる充実感、満足感を得る体験をすることは、生涯にわたる学習意欲やウェルビーイング (well-being) につながるとともに、将来、その体験を子どもたちと共有していきたいという動機となり、世代を越えた読書活動の推進の循環が形成されることが期待されます。

全ての子どもたちが、読書活動の恩恵を受けられるよう、社会全体で子どもの読書活動を推進に努めます。

## (2)家庭・地域、図書館、学校等を通じた社会全体での取組の推進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、家庭・地域、図書館、学校等が連携・協力し、社会全体で取り組むことが必要です。

家庭・地域では、保護者が読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、気軽に図書館に出向いたりするなどして、読書に対する興味や関心を引き出すように働きかけ、子どもの読書習慣が生活の中に位置付けられ継続して行われることが大切です。

図書館は、子どもが学校以外でさまざまな本と出合える場所で、読書活動の中核的な役割を果たすことが期待されています。

学校では、全ての子どもの読書活動を支援し、読書指導を充実し、読書の量を増やすことのみならず、読書の質を高めていくことが求められています。

このような観点から、家庭・地域、図書館、学校等それぞれが相互に連携・協力して、子どもの自主的な読書活動を図るような取組を推進するとともに、そのために必要な体制や施設・設備、その他の諸条件の整備・充実に努めます。

中央図書館

中央図書館

## 5 具体的な方策

### (1)子どもの発達段階に応じた子どもの読書活動の推進

子どもが読書を好きになり、自主的に読書をするようになるためには、乳幼児期から発達段階に応じた取り組みが必要です。乳幼児、児童、生徒一人一人の発達や読書経験に留意し、家庭・地域、学校での取り組みが重要です。

また、学校種間の接続期において生活の変化等により子どもが読書から遠ざかる傾向にあることに留意し、学校種間の連携による切れ目のない取り組みが望まれます。

#### 現状と課題

令和3年の全国学力・学習状況調査において、「授業時間以外に(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の設問に対して、南砺市の児童・生徒で「全くしない」と回答した割合が、小学生で24.9%、中学生で45.1%となっており、子どもの読書習慣の定着が図られていない状態が続いています。

#### 今後の取り組み

本計画では、子どもの読書活動推進の対象年齢を以下の4つに分け、読書に関する発達段階ごとの特徴に応じて、次のとおり読書活動を推進します。

#### ア 乳幼児期(0歳から6歳まで)における読書活動の推進

- ・家庭では、絵本や物語の読み聞かせを行い、子どもが絵本や物語に興味を示す環境を整えます。
- ・保育園等や市立図書館では、発達段階ごとに推薦図書の紹介等を行い、子どもとその保護者へ向けて情報を発信します。
- ・小学校入学前の園児に、「図書館共通利用カード」をプレゼントして、市立図書館利用の促進に努めます。

## 5 具体的な方策

### (1)発達段階に応じた多様な子どもたちの読書活動の推進

子どもが生涯にわたる読書習慣を確立するためには、一人一人の発達段階に応じた読書活動が行われることが重要です。また、子どもの読書習慣は、家庭生活や学校生活、地域社会等との日常的な関わりを通して育まれるので、子どもの身近にいる大人が役割を認識し、子どもの読書の機会の充実を図ることが大切です。

また、全ての子どもたちの可能性を引き出すために、個別最適な学びの機会を整備し、多様な子どもたちを受容し、それに対応した取組が望まれます。

#### 現状と課題

令和5年の全国学力・学習状況調査において、「授業時間以外に(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書しますか」の設問に対して、南砺市の児童・生徒で「全くしない」と回答した割合が、小学生で26.9%、中学生で33.5%となっており、子どもの読書習慣の定着が図られていない状態が続いています。

#### 今後の取組

項目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
なんと！バースデーブック事業	1.00		0.75
高等学校と市立図書館の連携イベント	2回	1回	3回

本計画では、子どもの読書活動の推進の対象年齢を以下の4つに分け、読書に関する発達段階ごとの特徴に応じて読書活動を推進します。

- ・親子で一緒に本を楽しむことができる「おはなし会」等イベントの充実を図ります。
- ・「なんとみらい文庫(団体貸出)」を通じて、親子で絵本を楽しむ機会の充実と子育てに関する資料の貸し出しに努めます。
- ・乳幼児期からの読書は大切なため、保健センターと連携を図り、ブックスタート事業(※1)の開始に向けて検討します。

#### イ 小学生期(6歳から12歳まで)における読書活動の推進

- ・学校図書館と市立図書館の資料の充実を図ります。
- ・学校や市立図書館では、学年ごとに推薦図書の紹介を行い、子どもの読書習慣を身に付けていきます。
- ・市立図書館では、図書館利用指導として、図書館見学や司書体験等の内容を充実します。
- ・「児童館なんとみらい文庫(団体貸出)」を活用し、読書に親しむ環境を整えます。
- ・本と子どもをつなぐ人材を育成し、読み聞かせやストーリーテリング(※2)等で、おはなしを楽しむ機会を設けます。
- ・家族で同じ本を読む「家読(うちどく)」(※3)やファミリー読書に取り組みます。

#### ウ 中学生期(12歳から15歳まで)における読書活動の推進

- ・学校図書館と市立図書館の資料の充実を図ります。
- ・学校や市立図書館では、おすすめ本の紹介を行い、本を読むことにより知識を広げ、自分の考えを深めることができるよう努めます。
- ・「ノーメディアデー」(※4)に関連した読書活動の推進に取り組みます。
- ・南砺市型学校司書モデル事業(※5)を通じて、学校図書館担当職員(学校司書)(※6)と市立図書館司書の資質向上を図り、図書館利用を促します。

#### ア 乳幼児期(0歳から6歳まで)における読書活動の推進

- ・乳幼児期からの読書は大切なため、こども課と連携して「なんと！バースデーブック事業」(※1)の充実を図ります。
- ・家庭では、絵本や物語の読み聞かせを行い、子どもが絵本や物語に興味を示す環境を整えます。
- ・保育園等や市立図書館では、発達段階ごとに推薦図書の紹介等を行い、子どもとその保護者へ向けて情報を発信します。
- ・小学校入学前の園児に、「図書館共通利用カード」をプレゼントして、市立図書館利用の促進に努めます。
- ・親子で一緒に本を楽しむことができる「おはなし会」等イベントの充実を図ります。
- ・「なんとみらい文庫(団体貸出)」を通じて、親子で絵本を楽しむ機会の充実と子育てに関する資料の貸し出しに努めます。

#### イ 小学生期(6歳から12歳まで)における読書活動の推進

- ・市立図書館と学校図書館の共通システム化による資料の充実を図ります。
- ・GIGAスクール構想による一人1台タブレットによる本の貸出しや、読書シール等を活用して、子どもの読書習慣を身に付けます。
- ・市立図書館では、図書館利用指導として、図書館見学や司書体験等の内容を充実します。
- ・「児童館なんとみらい文庫(団体貸出)」を活用し、読書に親しむ環境を整えます。
- ・本と子どもをつなぐ人材を育成し、読み聞かせやストーリーテリング(※2)等で、おはなしを楽しむ機会を設けます。
- ・家族で同じ本を読む「家読(うちどく)」(※3)やファミリー読書に取り組みます。
- ・南砺市型学校司書モデル事業(※5)を通じて、学校図書館担当職員(学校司書)(※6)と市立図書館司書の資質向上を図り、図書

中央図書館  
(国第5次)  
(県第5次)

中央図書館

### エ 高校生期(15歳から18歳まで)における読書活動の推進

- ・学校図書館と市立図書館の資料の充実を図ります。
- ・これまでの幅広い読書活動を通じて、情報を得て用いるなど、ものの見方や考え方を豊かにするとともに、「心に残る一冊の本」と出合うきっかけとなる環境づくりに努めます。
- ・高等学校と市立図書館が連携してイベントを開催します。
- ・ビブリオバトル(書評合戦)(※7)の実施を検討します。

※1 **ブックスタート事業**:乳幼児健診等に赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを行い、併せて絵本の入ったブックスタート・バックを手渡し、赤ちゃんと保護者が絵本を通して心が触れ合うひとときを応援する事業

※2 **ストーリーテリング**:語り手が物語を覚えて、聞き手に語ること

※3 **家読(うちどく)**:家庭において子どもを中心に家族と同じ本を読むことで、本を媒体として相互理解を深め、家庭の絆が一層深まることを目指す活動

※4 **ノーメディアデー**:各家庭でテレビやビデオ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等のメディアを控えるとともに、メディアとの関わり方を考え、生活習慣を見直すきっかけとする取り組み

※5 **南砺市型学校司書モデル事業**:市立図書館から学校図書館へ司書を派遣する事業

※6 **学校図書館担当職員(学校司書)**:自治体が独自に採用して学校図書館に配置した専門職員のこと(南砺市では学校図書館司書助手)採用条件や勤務条件等は自治体によって異なる

※7 **ビブリオバトル(書評合戦)**:発表者が読んで面白いと思った本を一人5分で紹介し、その発表に関する意見交換を2~3分程度で行い、全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動

館利用を促します。

### ウ 中学生期(12歳から15歳まで)における読書活動の推進

- ・学校図書館と市立図書館の共通システム化による資料の充実を図ります。
- ・GIGA スクール構想による一人1台タブレットによる本の貸出しや、読書シール等を活用して、子どもの読書習慣を身に付けます。
- ・学校や市立図書館では、おすすめ本の紹介を行い、本を読むことにより知識を広げ、自分の考えを深めることができるよう努めます。
- ・「ノーメディアデー」(※4)に関連した読書活動の推進に取り組みます。
- ・南砺市型学校司書モデル事業(※5)を通じて、学校図書館担当職員(学校司書)(※6)と市立図書館司書の資質向上を図り、図書館利用を促します。

### エ 高校生期(15歳から18歳まで)における読書活動の推進

- ・学校図書館と市立図書館の資料の充実を図ります。
- ・これまでの幅広い読書活動を通じて、情報を得て用いるなど、ものの見方や考え方を豊かにするとともに、「心に残る一冊の本」と出合うきっかけとなる環境づくりに努めます。
- ・高等学校と市立図書館が連携してイベントを継続します。
- ・ビブリオバトル(書評合戦)(※7)の実施を検討します。

### オ 多様な子どもたちにおける読書活動の推進

- ・多様な子どもたちの知的活動を増進し、様々な興味関心に応える魅力的な図書館資料の充実を図ります。
- ・非来館型サービスの充実を図り、障がいのある子どもへの読書資料の充実を図ります。

## (2)-①家庭・地域における子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣の基礎は、第一に家庭であり、乳幼児期には保護者が読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだりする環境づくりが大切です。乳幼児期に本と出会うことは、子どもの読書活動を促す最も有効な手段です。そして、家庭のぬくもりを感じながら過ごすひとときは、心を豊かにする貴重な時間でもあります。

また、子どもの身近なところに本と親しむ環境をつくることも大切です。保育園等や児童館、交流センターなどは、学校や図書館以外で

- ※1 **なんと！パースデーブック事業**：1歳の誕生を迎えた児童に絵本を2冊プレゼントする事業
- ※2 **ストーリーテリング**：語り手が物語を覚えて、聞き手に語りこと
- ※3 **家読(うちどく)**：家庭において子どもを中心に家族と同じ本を読むことで、本を媒体として相互理解を深め、家庭の絆が一層深まることを目指す活動
- ※4 **ノーメディアデー**：各家庭でテレビやビデオ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等のメディアを控えるとともに、メディアとの関わり方を考え、生活習慣を見直すきっかけとする取り組み
- ※5 **南砺市型学校司書モデル事業**：市立図書館から学校図書館へ司書を派遣する事業
- ※6 **学校図書館担当職員(学校司書)**：自治体が独自に採用して学校図書館に配置した専門職員のこと(南砺市では学校図書館司書助手)採用条件や勤務条件等は自治体によって異なる
- ※7 **ビブリアバトル(書評合戦)**：発表者が読んで面白いと思った本を一人5分で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度で行い、全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動

## (2)-①家庭・地域における子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ継続して行われるよう、保護者が読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、気軽に図書館に向いたりするなどして、読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たしていくことが大切です。

また、子どもの身近なところに本と親しむ環境をつくることも

子どもが本と出合え、地域における読書活動の場となる施設です。これらの施設において、今後も絵本の読み聞かせや「なんとみらい文庫(団体貸出)」を活用し、子どもの読書活動の推進に努めます。

## ア 家庭における読書活動の推進

### 現状と課題

多くの保護者は、読書が子どもの健全な人格形成に大切な要素であることを理解していますが、子どもの本や読書についての情報は充分といえません。

市立図書館では、「あかちゃんに絵本を」等のブックリストや、小学校入学前の園児に「図書館共通利用カード」を希望者にプレゼントしています。また、おはなし会を通じて、保護者が本や読み聞かせの知識を得られるようにしています。

しかし、家庭の事情、塾やスポーツ少年団などに加え、インターネットやSNS、オンラインゲーム等に費やす時間の増加で、読書を通じた親子の時間が取りにくくなっています。

### 今後の取り組み

項目	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
図書館共通利用カード配布人数	236人(※a)	266人	224人
絵本ライブ参加者	300人(※b)	243人	171人

※実績値(平成29年度)：南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)の初年度の実績値

※実績値(令和2年度)：南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)の最新実績値

※a：236人=295人(R02年(2020)出生数)×80%(カードプレゼントの配布率)

※b：300人=377席(ヘリオス1階座席数)×80%(ベビーカーや車椅子のスペースを考慮)

大切です。保育園等や児童館、交流センターなどは、学校や図書館以外で子どもが本と出合え、地域における読書活動の場となる施設です。これらの施設において、今後もおはなし会や「なんと！ぐるっと巡回本サービス」(※8)を活用し、子どもの読書活動の推進に努めます。

## ア 家庭における読書活動の推進

### 現状と課題

多くの保護者は、読書が子どもの健全な人格形成に大切な要素であることを理解していますが、子どもの本や読書についての情報は充分といえません。

市立図書館では、「あかちゃんに絵本を」等のブックリストの配布や、「なんと！バースデーブック事業」による絵本プレゼントによって、保護者が本や読み聞かせの知識を得られるようにしています。また、児童生徒には、市立図書館と学校図書館の共通システム化を機に全児童生徒に「図書館共通利用カード」をプレゼントし、家庭での読書のきっかけづくりとしています。

しかし、家庭の事情、塾やスポーツ少年団などに加え、インターネットやSNS、オンラインゲーム等に費やす時間の増加で、読書を通じた親子の時間が取りにくくなっています。

### 今後の取組

項目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
図書館共通利用カード配布人数	236人(※a)	193人	294人
絵本ライブ参加者	300人(※b)	214人	211人

- ・乳幼児を持つ保護者向けに発行している「あかちゃんに絵本を」や「どの絵本にしようかな」等のブックリストを更新し、図書館の利用案内を配布します。

中央図書館

中央図書館

- ・乳幼児を持つ保護者向けに発行している「あかちゃんに絵本を」や「どの絵本にしようかな」等のブックリストを更新し、市立図書館の利用を促します。
- ・子どもたちが本に関する情報をいつでもどこでも気軽に調べることができるよう、市立図書館ホームページの子ども向けページを充実し、活用を促します。
- ・親子で一緒に本を楽しむことができるイベントの充実と、ホームページや広報などの情報発信の充実に努めます。
- ・家庭において子どもを中心に家族と同じ本を読むことで、本を媒体として相互理解を深め、家族の絆が一層深まることを目指す「家読(うちどく)」を推奨します。

### イ 保育園・認定こども園における読書活動の推進

#### 現状と課題

年齢に応じた絵本を取りそろえ、保育の中で読み聞かせをするなどいつでも自由に本に親しむことのできる環境があります。また、「なんとみらい文庫(団体貸出)」や、「子育てミニ文庫」(※8)を利用し、絵本に親しむ時間を設けています。

読書習慣は家庭で築かれることから、保育園等から家庭へ子育て本の貸し出しを実施し、保護者に対して乳幼児期の読書の大切さを伝える必要があります。

項目	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
出前おはなし会参加者	1,100人(※c)	722人	738人
図書館招待・図書館探検	33人(※d)	78人	17人

※c : 1,100人 = 1,392人(R03年度(2021)園児数) × 80%(人口減少考慮)

※d : 33人 = 41人(R03年度(2021)五箇山地域園児数) × 80%(人口減少考慮)

- ・子どもたちが本に関する情報をいつでもどこでも気軽に調べることができるよう、図書館ホームページのキッズページの充実を図ります。
- ・親子で一緒に本を楽しむことができるイベントを充実と、ホームページや広報などの情報の発信を強化します。
- ・家庭において子どもを中心に家族と同じ本を読むことで、本を媒体として相互理解を深め、家族の絆が一層深まることを目指す「家読」を勧めます。

※8 **なんと！ぐるっと巡回本サービス**:子どもたちの参加により行われる読書指導のことであり、読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出す

### イ 保育園・認定こども園における読書活動の推進

#### 現状と課題

年齢に応じた絵本を取り揃え、保育の中で読み聞かせをするなどいつでも自由に本に親しむことのできる環境があります。また、「なんとみらい文庫(団体貸出)」や、「子育てミニ文庫」(※9)を利用し、絵本に親しむ時間を設けています。

幼児期に読書の楽しさを知ることができるように、園から家庭へ絵本や子育て本の貸出しを通じて、保護者に対しても読み聞かせの大切さや意義を広く普及することが必要です。

#### 今後の取組

項目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
出前おはなし会参加者	1,100人(※c)	514人	536人
図書館招待・図書館探検	33人(※d)	0人	23人

- ・読み聞かせ技術の向上や、子どもの読書活動に関する情報が得

保育園  
(こども課)

### 今後の取り組み

- ・読み聞かせ技術の向上や、子どもの読書活動に関する情報が得られるよう、保育士や幼稚園教諭の研修の機会を設けます。
- ・市立図書館と連携を強め、発達段階に応じた図書の選定に努めます。
- ・地域のボランティアグループと連携し、親子に読み聞かせを行うなど絵本の楽しさを伝えます。
- ・「なんとみらい文庫(団体貸出)」を活用し、絵本以外に子育て本を貸し出すなど、家庭での読書のきっかけづくりに努めます。
- ・保育園等に「なんとみらい文庫(団体貸出)」を設置することで、子どもが絵本を身近に感じ、家族で市立図書館への来館のきっかけとなるよう促します。

※8 **子育てミニ文庫**：各地域の子育て家庭が活用できるよう、読み聞かせ本や、子育て支援に関するDVD等を設置

### ウ 児童館・子育て支援センターにおける読書活動の推進

#### 現状と課題

ボランティアグループや図書館職員などによる絵本の読み聞かせやおはなし会などの活動や、コロナ禍の中、市内に3校ある高等学校のうち、南砺福光高校生が読み聞かせ動画の上映を行うなど、子どもが地域の中で読書に親しむ場としての役割を果たしています。

児童館では子どもが自由に読書する場を提供していますが、興味・関心を引くような本が少ないのが現状です。また、児童の活字離れが見られ、漫画や絵本等がより好まれる傾向があります。「児童館なんとみらい文庫(団体貸出)」を活用し、おすすめの本や話題の本などを紹介し、手に取れるコーナーの設置など、読書に親しむ場の提供が必要です。

子育て支援センターでは絵本の読み聞かせなどを行っており、自由に絵本コーナーを利用できます。絵本コーナーの内容をより充実させるため、市立図書館の団体貸出を活用しています。また、ボランティアグループや図書館職員によるおはなし会を開催し、子育て支援活動の

られるよう、保育士や幼稚園教諭の研修の機会を設けます。

- ・市立図書館と連携を強め、発達段階に応じた図書の選定に努めます。
- ・地域のボランティアグループと連携し、読み聞かせを行うなど絵本の楽しさを伝えます。
- ・「なんとみらい文庫(団体貸出)」の充実を図り、家庭での読書のきっかけづくりに努めます。
- ・保育園等の「なんとみらい文庫(団体貸出)」の貸出しを通じて、子どもが絵本を身近に感じ、家族で市立図書館への来館のきっかけとなるよう促します。

※9 **子育てミニ文庫**：各地域の子育て家庭が活用できるよう、読み聞かせ本や、子育て支援に関するDVD等を設置

### ウ 児童館・子育て支援センターにおける読書活動の推進

#### 現状と課題

ボランティアグループや図書館職員などによる絵本の読み聞かせやおはなし会などを行うなど、読書に親しむ場としての役割を果たしています。

児童館では子どもが自由に読書する場を提供していますが、興味・関心を引くような本が少ないのが現状です。また、児童の活字離れが見られ、漫画や絵本等がより好まれる傾向があります。「児童館なんとみらい文庫(団体貸出)」を活用し、おすすめの本や話題の本などを紹介し、手に取れるコーナーの設置など、読書に親しむ場の提供が必要です。

子育て支援センターでは絵本の読み聞かせなどを行っており、自由に絵本コーナーを利用できます。絵本コーナーの内容をより充実させるため、市立図書館の団体貸出を活用しています。また、ボランティアグループや図書館職員によるおはなし会を開催し、子育て支援活動の中で読み聞かせを行っています。

児童館  
子育て支援  
センター  
(こども課)

中で読み聞かせを行っています。

**今後の取り組み**

項目	目標値 (令和8年度)	実績値		
		平成29年度	令和2年度	
図書館からの 団体貸出	児童館	48回(※e)	2回	11回
	子育て支援センター	60回(※f)	96回	63回
中・高校生による 読み聞かせ	児童館	8回(※g)	8回	0回

※e: **48回**=4 児童館(さくらっこ、アルカス、きぼりっこ、きつずらんど)×12 カ月  
 ※f: **60回**=5 センター(さくらんぼ、きらきら、たんぼぼ、あっぷる、にこにこ)×12 カ月  
 ※g: **8回**=2021 年度南砺福光高等学校閉校、今後、市内中学校、市内高等学校で実施予定

- ・市立図書館と連携して、乳幼児や児童の図書の選定を行うなど、図書コーナーの整備と充実に努めます。
- ・ボランティアグループや講師によるおはなし会を開催するなど、今後も読書の楽しさを伝えます。
- ・年齢に応じた図書の展示をするなど、子どもと本の出合いの場を増やします。
- ・市立図書館から発行している「あかちゃんに絵本を」や「どの絵本にしようかな」を配置したり、「子育て支援センターだより」で読み聞かせの大切さを紹介したりするなど、乳幼児期の保護者に積極的に情報を発信します。
- ・児童館での「中・高校生(市内中学校、市内高等学校)による読み聞かせ」の実施を検討します。

**エ 保健センターにおける読書活動の推進**

**今後の取組**

項目	目標値 (令和11年度)	実績値		
		令和4年度	令和5年度	
図書館からの 団体貸出	児童館	12回(※e)	36回	27回
	子育て支援センター	72回(※f)	60回	45回
高校生による 読み聞かせ	児童館	1回(※g)	0回	0回

- ・市立図書館と連携して、乳幼児や児童の図書の選定を行うなど、図書コーナーの整備と充実に努めます。
- ・ボランティアグループによるおはなし会の内容を充実するなど、今後も読書の楽しさを伝えます。
- ・年齢に応じた図書の展示をするなど、子どもと本の出合いの場を増やします。
- ・読書活動に関し、専門的知識を持つ絵本専門士の講座等を開催し、保護者に読み聞かせの大切さを伝えます。
- ・市立図書館から発行している「あかちゃんに絵本を」や「どの絵本にしようかな」を配置したり、「子育て支援センターだより」で読み聞かせの大切さを紹介したりするなど、乳幼児期の保護者に積極的に情報を発信します。
- ・児童館での「高校生(市内高等学校)による読み聞かせ」による読み聞かせの実施を検討します。

**エ 保健センターにおける読書活動の推進**

**現状と課題**

保健セン

### 現状と課題

母子保健推進員や子育て支援センター保育士の協力を得て、乳幼児期の健診・教室において、紙芝居や絵本の読み聞かせを行っています。3か月児健診の会場では市立図書館発行の「あかちゃんに絵本を」や「図書館利用案内」を配置しています。今後も乳幼児期に、絵本を介して親子のふれあいを啓発していく必要があります。

### 今後の取り組み

項目	目標値 (令和8年度)	目標値	
		平成29年度	令和2年度
「あかちゃんに絵本を」配布数	100(※h)	90	84

※h: 100枚=最高配布数90枚のため、100枚を目指す

- 絵本を介して子どもと接する職員の資質向上に努め、市立図書館や子育て支援センターなどと連携して、乳幼児期に絵本とふれあう大切さを伝える場とします。

## オ 交流センターにおける読書活動の推進

### 現状と課題

市内31交流センターでは、平成23年度に「子育てミニ文庫」を設置し、地域の身近な施設として、訪れる子どもの読書に親しむ場となっています。

また、夏・冬休み子ども教室を利用して「移動図書館」を実施し、地域の子どもたちに読書の大切さを伝えています。

### 今後の取り組み

項目	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
夏・冬休み移動図書館	100人(※i)	62人	17人

※i: 100人=5交流センター×20人(1交流センター参加者目標人数)

母子保健推進員や子育て支援センター保育士の協力を得て、乳幼児期の健診・教室において、紙芝居や絵本の読み聞かせを行っています。

3か月児健診の会場では図書館発行の「あかちゃんに絵本を」や「図書館利用案内」を配置しています。今後も乳幼児期に、絵本を介しての親子のふれあいを啓発していく必要があります。

### 今後の取組

項目	目標値 (令和11年度)	目標値	
		令和4年度	令和5年度
「あかちゃんに絵本を」配布数	100(※h)	44	40

- 絵本を介して子どもと接する職員の資質向上に努め、市立図書館や子育て支援センターなどと連携して、乳幼児期に絵本とふれあう大切さを伝える場とします。

## オ 交流センターにおける読書活動の推進

### 現状と課題

市内31交流センターでは、平成23年度に「子育てミニ文庫」を設置し、地域の身近な施設として、訪れる子どもの読書に親しむ場となっています。

また、夏・冬休み子ども教室を利用して「移動図書館」を実施し、地域の子どもたちに読書の大切さを伝えています。

### 今後の取組

項目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
夏・冬休み移動図書館	100人(※i)	34人	102人

ター

生涯学習ス  
ポーツ課

- ・市立図書館と連携し、引き続き「子育てミニ文庫」の充実、利用促進を図ります。
- ・交流センター行事などを利用して、地域の子どもや家庭での読書の大切さの啓発に努めます。
- ・夏・冬休み移動図書館で、読み聞かせやアニメーション(※9)等の内容の充実を図ります。
- ・南砺市視聴覚ライブラリーの利用促進に努めます。

※9 アニメーション:子どもたちの参加により行われる読書指導のことであり、読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出す

## (2)-②市立図書館における子どもの読書活動の推進

市立図書館は、豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所です。また、誰もが気軽に利用でき、必要な知識を得ることができます。子どもたちは幼い頃から保護者とともに利用することで、多くの本の中から読み聞かせや読書を楽しみ、それぞれの興味・関心のある事柄について調べ、探求することができます。

また、家庭・地域、学校等に、必要な資料や情報を提供するなど、読書活動推進の中心的な役割を担っています。

### ア 読書環境の整備

#### 現状と課題

市立図書館には、児童コーナーや青少年コーナーがあり、コロナ禍の中でも社会的距離を保ちながら、くつろいだ雰囲気の中で、子どもが本を選んで読むことができます。保護者が子どもに本を読み聞かせたり、一緒に選んだり、本を通じた家族のふれあいの場を提供しています。また、誰もが読書できるよう、音声・拡大読書器や対面朗読室

- ・市立図書館と連携し、引き続き「子育てミニ文庫」の充実、利用促進を図ります。
- ・「なんと！ぐるっと巡回本サービス」(※8)により、資料の充実を図ります。
- ・交流センター行事などを利用して、地域の子どもや家庭での読書の大切さの啓発に努めます。
- ・夏・冬休み移動図書館で、読み聞かせやアニメーション(※9)等の内容の充実を図ります。
- ・南砺市視聴覚ライブラリーの利用促進に努めます。

※9 アニメーション:子どもたちの参加により行われる読書指導のことであり、読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出す

## (2)-②市立図書館における子どもの読書活動の推進

市立図書館は、豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所です。また、誰もが気軽に利用でき、必要な知識を得ることが出来ます。子どもたちは幼い頃から保護者とともに利用することで、多くの本の中から読み聞かせや読書を楽しみ、それぞれの興味・関心のある事柄について調べ、探求することができます。

また、家庭・地域、学校等に、必要な資料や情報を提供するなど、読書活動推進の中核的な役割を担っています。

### ア 読書環境の整備

#### 現状と課題

市立図書館には、児童コーナーや青少年コーナーがあり、くつろいだ雰囲気の中で、子どもが本を選んで読むことができます。保護者が子どもに本を読み聞かせたり、一緒に選んだり、本を通じた家族のふれあいの場を提供しています。また、誰もが読書できるよう、中央図書館に音声・拡大読書器や対面朗読室を、図書

を、中央図書館に整備しています。

子どもが利用しやすいように、配置や掲示を整え、月ごとのテーマを決めて本の展示を行っています。来館することが困難な子どもたちや、来館できても慣れていないためにうまく本を選べない子どもも多く、求める本と出会いやすくすることが課題です。

**今後の取り組み**

項目		目標値 (令和8年度)	実績値	
			平成29年度	令和2年度
子どもの本の展示 (毎月実施)	中央	12回(※j)	12回	11回
	城端	12回	12回	11回
	平	12回	12回	11回
	井波	12回	12回	11回
	福野	12回	12回	11回
郵送貸出サービス		1(※k)	0	0

※j:12回=毎月実施する

※k:1=これまで実績0のため、1を目指す

- ・子どもの読書に対する現状やニーズを知り、より利用しやすくなるように市立図書館内の配置や掲示を工夫して、子どもと本の出合いの場を更に増やすよう努めます。
- ・子どもがもっと本に親しみ、情報を得ることができるよう関係施設と連携して、子どもの身近な場所で本に親しむことができる環境を整えます。
- ・子どもたち自身が読書の楽しさを発信できるように、本のPOP作りやビブリオバトル(書評合戦)の機会を設けます。
  - ・子どもの多様性に対応した施設設備面での配慮、図書館利用の際

館システムの改修に伴い、耳で聞く読書「オーディオブック」に整備しています。

子どもが利用しやすいように、配置や掲示を整え、月毎のテーマを決めて本の展示を行っています。来館することが困難な子どもたちや、来館できても慣れていないためにうまく本を選べない子どもも多く、求める本と出会いやすくすることが課題です。

**今後の取組**

項目		目標値 (令和11年度)	実績値	
			令和4年度	令和5年度
子どもの本の展示 (毎月実施)	中央	12回(※j)	12回	12回
	城端	12回	12回	12回
	平	12回	12回	12回
	井波	12回	12回	12回
	福野	12回	12回	12回
郵送貸出サービス		1(※k)	0	0

※j: 12回=毎月実施する

※k: 1=これまで実績0のため、1を目指す

- ・子どもの読書に対する現状やニーズを知り、より利用しやすくなるように市立図書館内の配置や掲示を工夫して、子どもと本の出合いの場を更に増やすよう努めます。
- ・子どもがもっと本に親しみ、情報を得ることができるよう関係施設と連携して、子どもの身近な場所で本に親しむことができる環境を整えます。
- ・子どもたち自身が読書の楽しさを発信できるように、本のPOP作りやビブリオバトル(書評合戦)の機会を設けます。

の介助やコミュニケーションの確保、点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の充実に努めます。

## イ 図書館資料の充実

### 現状と課題

充実したサービスの根幹には、充実した資料の整備が必要です。市立図書館では、蔵書数 502,861 冊のうち、111,442 冊(R03.3.31 現在)の児童書を所蔵しています。子ども向けの資料には読み物、絵本や紙芝居、調べ学習に必要な本のほか、アニメなどの視聴覚資料も所蔵しています。市立図書館では、乳幼児から高校生まで、それぞれの年齢に合った資料を整備する必要があり、子どもたちが読書に親しみ、知識を得て、想像力を育み、好奇心を満たすための資料を提供するよう努力しています。

令和2年度の利用率は、コロナ禍の中減少しましたが、臨時休館中も予約本を貸し出し、サービスを継続しました。

子どもたちが利用するのは、最寄りの図書館にほぼ限られるため、市立図書館のない地域(井口・利賀・上平地域)の子どもたちへは「なんとみらい文庫(団体貸出)」を通じて、本を読む機会を提供しています。また、一部の中学校では長期休業前に「YAみらい文庫(団体貸出)」を実施し、学校で市立図書館の本を借りる機会を作りました。

近年、図書購入費が少しずつ減少していますが、図書館の規模に関わらず、一定の児童書の購入が必要であり、児童書の購入費の確保が課題となっています。このような中で、貸出率の高い図書の購入が優先されると、調べ学習をサポートする資料などの充実が図りにくくなります。また、名作など永く読み継がれている本が劣化した場合は、買い換えが必要となります。

### 今後の取り組み

○市立図書館蔵書数と児童書の推移

・子どもの多様性に対応した施設設備面での配慮、図書館利用の際の介助やコミュニケーションの確保、点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の充実に努めます。

## イ 図書館資料の充実

### 現状と課題

充実したサービスの根幹には、充実した資料の整備が必要です。市立図書館では、蔵書数 500,652 冊のうち、110,983 冊(R06.3.31 現在)の児童書を所蔵しています。子ども向けの資料には読み物、絵本や紙芝居、調べ学習に必要な本のほか、アニメなどの視聴覚資料も所蔵しています。市立図書館では、乳幼児から高校生まで、それぞれの年齢に合った資料を整備する必要があり、子どもたちが読書に親しみ、知識を得て、想像力を育み、好奇心を満たすための資料を提供するよう努力しています。

子どもたちが利用するのは、最寄りの図書館にほぼ限られるため、市立図書館のない地域(井口・利賀・上平地域)の子どもたちへは「なんと！ぐるっと巡回本サービス」を通じて、学校で市立図書館の本を借りる機会を作り、本を読む機会を提供しています。

また、図書購入費を維持し、図書館の規模に関わらず、一定の児童書を購入しています。このような中で、貸出率の高い図書の購入が優先されると、調べ学習をサポートする資料などの充実が図りにくくなります。また、名作など永く読み継がれている本が劣化した場合は、買い換えが必要となります。

### 今後の取組

○市立図書館蔵書数と児童書の推移

中央図書館

	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
市立図書館蔵書数	500,000冊(※1)	492,629冊	502,861冊
うち児童書	125,000冊	105,875冊	111,442冊
児童書/蔵書数	25.0%(※m)	21.5%	22.2%

※1: **500,000冊** = 書庫を含む収蔵能力上、蔵書が増加した分、除籍も必要なため  
 ※m: **25.0%** = 蔵書数に対する児童書の割合を増加

○一人当たり図書貸出冊数

	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
入館者数	255,090人(※n)	283,798人	191,123人
貸出冊数	327,038冊(※o)	361,465冊	258,412冊
うち児童書	114,463冊(※p)	124,536冊	77,101冊
南砺市人口	45,422人 (令和7年予想)	51,485人	49,235人
冊/人	7.2冊(令和6年度)	7.02冊	5.2冊

資料: 南砺市人口(令和7年度予想)・第2次南砺市総合計画・南砺市人口ビジョン(令和2年3月)  
 一人当りの貸出冊数(令和6年度)・第2次南砺市教育振興基本計画(令和2年3月)  
 ※n: **255,090人** H29年度実績の283,798人(入館者数)÷361,465冊  
 (貸出冊数)=0.78冊/人  
 R08年度目標値入館者数=0.78冊(1人当りの貸出冊数)×327,038冊(R08年度目標貸出冊数)  
 ※o: **327,038冊** 45,422人(南砺市人口)×7.2冊/人

	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
市立図書館蔵書数	500,000冊(※1)	503,209冊	502,652冊
うち児童書	125,000冊	110,674冊	110,983冊
児童書/蔵書数	25.0%(※m)	22.00%	22.17%

○一人当たり図書貸出冊数

	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
入館者数	255,090人(※n)	202,370人	191,123人
貸出冊数	327,038冊(※o)	248,302冊	258,412冊
うち児童書	114,463冊(※p)	74,868冊	70,958冊
南砺市人口	45,422人 (令和7年予想)	47,413人	46,585人
冊/人	冊(令和 年度)	5.2冊	5.0冊

○市立図書館利用率

	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度

※p : 114,463 冊 H29 年度実績の 124,536 冊(児童書)÷361,465(貸出冊数)=0.35

R08 年度目標児童書数=327,038 冊(R08 年度目標貸出冊数)×0.35

○市立図書館利用率

	目標値 (令和 8 年度)			実績値					
	年 齡 別 人 口 A ( 人)	実利用 者数B (人)	利 用 率 B / A (%)	平成 29 年度			令和 2 年度		
				年 齡 別 人 口 A ( 人)	実 利 用 者 数 B ( 人)	利 用 率 B / A (%)	年 齡 別 人 口 A ( 人)	実 利 用 者 数 B ( 人)	利 用 率 B / A (%)
幼児 (～5 歳)	1,484	178(※q)	12.00	1,906	187	9.81	1,701	170	9.99
小学生 (6～11 歳)	1,833	1,283(※r)	70.00	2,237	1,623	72.55	2,063	952	46.15
中学生 (12～14 歳)	1,048	419(※s)	40.00	1,243	433	34.84	1,200	232	19.33

	年 齡 別 人 口 A ( 人)	実利用 者数B (人)	利 用 率 B / A (%)	年 齡 別 人 口 A ( 人)	実 利 用 者 数 B ( 人)	利 用 率 B / A (%)	年 齡 別 人 口 A ( 人)	実 利 用 者 数 B ( 人)	利 用 率 B / A (%)
幼児 (～5 歳)	1,484	178(※q)	12.00	1,484	178	12	1,423	124	8.7
小学生 (6～11 歳)	1,833	1,283(※r)	70.00	1,833	1,283	70	1,948	706	36.2
中学生 (12～14 歳)	1,048	419(※s)	40.00	1,048	419	40	1,047	191	18.2
南砺市人口 (人)	45,422			45,422			46,585		

(付記) 実利用者数は、図書館に来館し図書資料を借りた実人数であり、団体貸出の数は含まれない。  
年度内に 1 回以上利用した実数であり、2 回利用しても実利用者数は 1 人とカウントする。

- ・児童書の購入費を確保し、新刊のほか、利用の多い図書を複数蔵書とすることで関係施設への団体貸出や「なんとみらい文庫(団体貸出)」に備えます。
- ・名作など永く読み継がれている本や、劣化の激しい本は買い換え、調べ学習に必要な本は計画的に購入し、幅広く充実した蔵

中央図書館

南砺市人口 (人)	45, 422	51, 485	49, 235
--------------	------------	------------	------------

(付記)実利用者数は、図書館に来館し図書資料を借りた実人数であり、団体貸

出の数は含まれない。年度内に1回以上利用した実数であり、2回利用しても実利用者数は1人とカウントする。

※目標値(令和8年度)人口 45,422 人 は、南砺市人口ビジョン令和7年(2025)目標値である。

内、0～14 歳まで人口は、4,365 人である。(R02 年度:4,964 人)

※R08 年度目標利用率は、南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)計画目標値に準じる

※R02 年度の年齢別人口(0～14 歳まで:4,964 人)各年齢層の割合を計算

※q: 178 人(幼児～5歳) =4,365 人(0～14 歳人口)×0.34(R02 年度年齢別割合)×0.12(R08 年度利用率)

※r: 1,283 人(小学生6～11 歳) =4,365 人(0～14 歳人口)×0.42(R02 年度年齢別割合)×0.70(R08 年度利用率)

※s: 419 人(中学生12～14 歳) =4,365 人(0～14 歳人口)×0.42(R02 年度年齢別割合)×0.40(R08 年度利用率)

- ・児童書の購入費を確保し、新刊のほか、利用の多い図書を複数蔵書とすることで関係施設への団体貸出や「なんとみらい文庫(団体貸出)」に備えます。
- ・名作など永く読み継がれている本や、劣化の激しい本は買い換え、調べ学習に必要な本は計画的に購入し、幅広く充実した蔵書構築に努めます。
- ・最寄りの図書館にない本と出合う「なんとぐるっと巡回本(なんぐ

書構築に努めます。

- ・子どもが継続して読書できるよう、電子書籍を含む電子資料について調査します。
- ・幅広い児童書の収集とふるさとの民話や文学の充実に努めます。

中央図書館

る)」を児童書へも拡充するよう努めます。

- ・子どもが継続して読書できるよう、電子書籍を含む電子資料について調査します。

### ウ 読み聞かせやおはなし会等の開催

#### 現状と課題

市立図書館では、定期的にボランティアや職員による読み聞かせを行っています。また、読書週間などに合わせて、本に親しむ機会や図書館利用のきっかけとなるように、春には「なんと！こども読書週間」、秋には「なんと！図書館まつり」を開催しています。「なんと！図書館まつり」では大きなイベント「絵本ライブ」があり、令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防対策を講じて開催しました。

中央図書館では、市内に3校ある高等学校のうち、南砺福光高等学校と連携しておはなし会等のイベントを実施しました。

しかし、イベントの実施は図書館利用のきっかけになりますが、読書の普及に大きく結びついていません。読み聞かせだけでは参加の動機になりにくいことも課題です。また、イベントの実施にボランティアグループの協力を得ていますが、ボランティアグループの高齢化が進んでいます。

近年、小学生の公共施設見学等、子どもに直接本を紹介する機会が少しずつ増えてきましたが、まだすべての小学校で実施されていません。

#### ○読み聞かせボランティア団体数（R03.3 現在）

地域	団体数
福光	2
城端	1
平	1
井波	2
福野	1

#### ○ボランティアグループ別読み聞かせ回数と参加人数

### ウ 読み聞かせやおはなし会等の開催

#### 現状と課題

市立図書館では、定期的にボランティアや職員による読み聞かせを行っています。また、読書週間などに合わせて、本に親しむ機会や図書館利用のきっかけとなるように、春には「なんと！こども読書週間」、秋には「なんと！図書館まつり」を開催しています。「なんと！図書館まつり」では大きなイベント「絵本ライブ」を開催しました。

しかし、イベントの実施は図書館利用のきっかけになりますが、読書の普及に大きく結びついていません。読み聞かせだけでは参加の動機になりにくいことも課題です。

近年、小学生の公共施設見学等、子どもに直接本を紹介する機会が少しずつ増えてきましたが、まだすべての小学校で実施されていません。

#### 今後の取組

- ・職員の資質向上を図り、イベントの中で、本の読み聞かせやブックトーク（※9）をするなど、子どもたちが本の楽しさを知る機会の増加に努めます。
- ・高等学校と市立図書館が連携してイベントを開催します。
- ・どの地域の学校でも、図書館見学を実施できるよう、各学校へ働きかけます。

※9 **ブックトーク**：あるテーマに沿って何冊かの本を順に紹介し、子どもたちに紹介した本や読書への興味をもたせる方法・技術のこと

中央図書館

団体名	図書館 (R02)		保育園・ 認定こども園 (R02)		子育て支援 センター (R02)		小学校 (R02)		児童館・放 課後児童 クラブ (R02)	
	回 数	延べ 人数	回 数	延べ 人数	回 数	延べ 人数	回 数	延べ 人数	回 数	延べ 人数
おはなし まんまる	8 回	100 人	/	/	2 回	30 人	/	/	/	/
おはなし JA 夢	/	/	/	/	/	/	37 回	723 人	/	/
虹の会	9 回	78 人	/	/	/	/	/	/	/	/
フラット b	/	/	35 回	47 人	/	/	/	/	/	/
ピッコロ グループ	9 回	75 人	/	/	9 回	111 人	15 回	1,00 0 人	/	/
つばきの 会	9 回	45 人	26 回	164 人	/	/	75 回	1,43 8 人	20 回	163 人
本でこん にちは	37 回	159 人	/	/	/	/	11 回	644 人	/	/

**今後の取り組み**

・職員の資質向上を図り、イベントの中で、本の読み聞かせやブックトーク（※10）をするなど、子どもたちが本の楽しさを知る機会の

増加に努めます。

- ・ボランティアグループの育成や、研修への参加支援に努めます。
- ・高等学校と市立図書館が連携してイベントを開催します。
- ・図書館見学を実施する学校が増えるよう、各学校へ働きかけます。

※10 **ブックトーク**: あるテーマに沿って何冊かの本を順に紹介し、子どもたちに紹介した本や読書への興味をもたせる方法・技術のこと

## エ 司書の配置と職員の資質向上

### 現状と課題

市立図書館司書は、子どもと本を結ぶため、児童書の幅広い知識やコミュニケーション能力など求められます。司書の人数は 17 人ですが、そのうち正規職員は 2 人で図書館運営の業務が多く、児童サービスは会計年度任用職員が多くを担っています。

しかし、会計年度任用職員もカウンター業務などがあるため、児童サービスに必要な経験を積みにくく、県や砺波地区の図書館協会等の研修に参加するなど資質向上を図り、読み聞かせやおはなし会、ブックトークなどを行っています。

### 今後の取り組み

○職員と司書の配置状況 (人) (R03.3.31 現在)

		中央	城端	平	井波	福野	計
目標値 (R8 年度)	職員数	9	3	2	4	6	24
	うち司書数	6	3	1	4	6	20
実績値 R02 年度	職員数	8	4	3	4	6	25
	うち司書数	5	3	1	3	5	17

※職員数及び司書数には、会計年度任用職員(フルタイム・パートタイム)も含む

- ・司書の配置を今後も維持し、より多くの司書が児童書の幅広い知識を持ち、児童サービスに必要な技能を高められるよう、さまざまな研

## ウ 司書の配置と職員の資質向上

### 現状と課題

市立図書館司書は、子どもと本を結ぶため、児童書の幅広い知識やコミュニケーション能力など求められます。司書の人数は 21 人ですが、そのうち正規職員は 4 人で図書館運営の業務が多く、児童サービスは会計年度任用職員が多くを担っています。

しかし、会計年度任用職員もカウンター業務などがあるため、児童サービスに必要な経験を積みにくく、県や砺波地区の図書館協会等の研修に参加するなど資質向上を図り、読み聞かせやおはなし会、ブックトークなどを行っています。また、読書週間などに合わせて、本に親しむ機会や図書館利用のきっかけとなるように、春には「なんと！こども読書週間」、秋には「なんと！図書館まつり」を開催しています。「なんと！図書館まつり」では大きなイベント「絵本ライブ」を開催しています。

しかし、イベントの実施は図書館利用のきっかけになりますが、読書の普及に大きく結びついていません。読み聞かせだけでは参加の動機になりにくいことも課題です。近年、小学生の公共施設見学等、子どもに直接本を紹介する機会が少しずつ増えてきましたが、まだすべての小学校で実施されていません。

### 今後の取り組み

○職員と司書の配置状況 (人)

(R06.3.31 現在)

中央図書館

修に積極的に参加できる環境を整えます。

- ・日々の業務における職員間の連携を密にし、共通認識をもって、子どもの読書活動を推進します。
- ・カウンター職員の丁寧な対応や積極的な声かけで、読書案内・相談など利用しやすい雰囲気づくりに努めます。

### オ 啓発広報

#### 現状と課題

市立図書館では、市の広報誌やホームページ、ケーブルテレビ、学校や保育園等へのチラシの配布などで、利用案内や本の紹介、イベント案内を継続して実施しています。令和2年度は、コロナ禍の中、小・中学生向けとその保護者に、臨時休館中の予約資料の貸し出しのPRチラシを配布しました。

しかし、広報誌やホームページ、ケーブルテレビでの啓発には限りがあり、今後も効果の高い方法を検討し、住んでいる地域にかかわらず、誰でも情報が得られるようにする必要があります。

また、市立図書館を利用するきっかけとしてイベントを実施していますが、参加する子どもが限定されている状況です。

#### 今後の取り組み

項目	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
①どの絵本にしようかな(季刊)	4回	4回	1回
②青少年向け新着図書案内(月刊)	12回	12回	12回

※①は、季刊号(年4回発行)、②は、月刊号(年12回発行)

- ・市立図書館のない地域を含め、図書館を利用したことのない子どもや保護者が行き たくなるような情報を発信し、読み聞かせや読書の大切さを啓発します。

		中央	城端	平	井波	福野	計
目標値 (R11年度)	職員数	9	3	2	4	6	24
	うち司書数	6	3	1	4	6	20
実績値 R05年度	職員数	10	4	2	4	6	26
	うち司書数	8	3	0	4	6	21

※職員数及び司書数には、会計年度任用職員(フルタイム・パートタイム)も含む

- ・司書の配置を今後も維持し、より多くの司書が児童書の幅広い知識を持ち、児童サービスに必要な技能を高められるよう、さまざまな研修に積極的に参加できる環境を整えます。
- ・日々の業務における職員間の連携を密にし、共通認識をもって、子どもの読書活動を推進します。
- ・職員の丁寧な対応や積極的な声かけで、読書案内・相談など利用しやすい雰囲気づくりに努めます。
- ・職員の資質向上を図り、イベントの中で、本の読み聞かせやブックトーク(※10)をするなど、子どもたちが本の楽しさを知る機会の増加に努めます。
- ・高等学校と市立図書館が連携してイベントを開催します。
- ・どの地域の学校でも、図書館見学を実施できるよう、各学校へ働きかけます。

※10 **ブックトーク**：あるテーマに沿って何冊かの本を順に紹介し、子どもたちに紹介した本や読書への興味をもたせる方法・技術のこと

### エ 図書館デジタル化推進事業の推進

#### 現状と課題

市立図書館では、急速なIC化とライフスタイルの変化に対応するため、資料ICシステム化による「セルフ貸出機・返却機」、「予約棚」と「セキュリティーゲート」等を整備し業務の効率化を図っています。

中央図書館

- ・スマートフォン等の普及、コミュニケーションツールの多様化にも対応できるホームページにします。
- ・こども課、保育園等と連携を図り、『なんとHug』（南砺市子育て支援アプリ）を活用し、市立図書館情報を発信します。

## カ 図書館ネットワークの強化

### 現状と課題

市立図書館では、定期的に団体貸出を行い、図書館のない地域も含め、家庭や学校での読書や、読み聞かせに役立てています。子育て支援センターや保育園等と連携し、出前おはなし会を実施している図書館もあります。

小学校や中学校から、授業に必要な資料の団体貸出の依頼や、レファレンス（学習・調査・研究を行う上で必要な文献や情報の支援）を実施しています。小学校で朝読書の時間などに読み聞かせをしている市立図書館もあります。

また、南砺市教育センターの学校司書研修に市立図書館職員も参加し、少しずつ各学校の司書教諭（※11）や学校図書館担当職員（学校司書）と連携しています。しかし、学校との連携会議は定期的に開催しておらず、情報共有が不足しています。

### 今後の取り組み

○小学校、中学校、義務教育学校と市立図書館との連携

項目		目標値 (令和8年度)	実績値	
			平成29年度	令和2年度
読み聞かせ	小学校	11回(※t)	8回	11回
団体貸出	小学校・義務教育学校(前期課)	5,000冊(※)	4,130冊	4,484冊
移動図書館 (YAみらい文庫)	中学校・義務教育学校(後期課程)	2,100冊 (※v)	559冊	600冊

### 今後の取組

## オ なんと！ぐるっと巡回本サービスの活用

### 現状と課題

市立図書館では、「なんと！ぐるっと巡回本サービス」により、定期的に団体貸出を行い、図書館のない地域も含め、家庭や学校での読書や、読み聞かせに役立てています。子育て支援センターや保育園等と連携し、出前おはなし会を実施している図書館もあります。

小学校や中学校から、授業に必要な資料の依頼や、レファレンス（学習・調査・研究を行う上で必要な文献や情報の支援）を実施しています。小学校で朝読書の時間などに読み聞かせをしている市立図書館もあります。

また、南砺市教育センターの学校司書研修に市立図書館職員も参加し、各学校の司書教諭（※10）や学校図書館担当職員（学校司書）と連携を図り、また、市立図書館のオンライン会議を定期的に開催しており、情報共有を図っています。

### 今後の取組

## カ 啓発広報

### 現状と課題

市立図書館では、市の広報誌やホームページ、ケーブルテレビ、学校や保育園等へのチラシの配布などで、利用案内や本の紹介、

中央図書館

※t: **11回** =毎月1回、読み聞かせを実施(夏休み期間を除く)

※u: **5,000冊** =増加傾向のため、5,000冊を目指す

※v: **2,100冊** =全中学校(8校)で年3回(夏・冬・春休み)実施、各校100冊/回(平・利賀のみ50冊/回) (100冊×3回×6校)+(50冊×3回×2校)=2,100冊

・今後も各施設と連携し、子育て関連図書も含めた団体貸出や「なんとみらい文庫(団体貸出)」、市立図書館以外の施設での読み聞かせを拡充します。

・司書教諭や学校図書館担当職員(学校司書)と連携を強化し、各担任が学校図書館を通じて市立図書館を利用しやすい体制をつくり、学校のニーズを把握して情報の共有化を図ります。

・小学校の授業や課外学習を利用して、読み聞かせを実施することで本の魅力を知ってもらい、市立図書館利用や読書につなげます。中学校では「YAみらい文庫(団体貸出)」の内容の充実と拡充を図ります。

・市立図書館と学校図書館(司書教諭や学校図書館担当職員(学校司書))との連携会議を定期的開催できるように努めます。

・「南砺市型学校司書モデル事業」を拡充し、市立図書館への利用を促します。

・高等学校と連携し、市立図書館の利用を促進し、読書の普及に努めます。

※11 **司書教諭**: 学校図書館の専門知識をつかさどる  
司書教諭は教諭をもって充てるという規定がある

## (2)-③学校における子どもの読書活動の推進

学校では、従来から学校図書館の利用指導や読書活動、国語科などの学習や朝読書などの活動を通じて児童・生徒の読書指導を行っており、学校図書館は子どもの読書習慣の形成に大きな役割を果たしています。

学校図書館について新学習指導要領では、学習の基盤となる言語能力

イベント案内を継続して実施しています。

しかし、広報誌やホームページ、ケーブルテレビでの啓発には限りがあり、今後も効果の高い方法を検討し、住んでいる地域にかかわらず、誰でも情報が得られるようにする必要があります。

また、市立図書館を利用するきっかけとしてイベントを実施していますが、参加する子どもが限定されている状況です。

項目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
ホームページの閲覧数	回		回
キッズページの閲覧数	回		回

### 今後の取組

- ・市立図書館のない地域を含め、図書館を利用したことのない子どもや保護者が行きたくなるような情報を発信し、読み聞かせや読書の大切さを啓発します。
- ・スマートフォン等の普及、コミュニケーションツールの多様化にも対応できるホームページの充実に努めます。
- ・こども課、保育園等と連携を図り、『なんと Hug』(南砺市子育て支援アプリ)を活用し、市立図書館情報を発信します。

### カ 図書館ネットワークの強化

#### 現状と課題

市立図書館では、「なんと!ぐるっと巡回本サービス」により、定期的に団体貸出を行い、図書館のない地域も含め、家庭や学校

教育総務課  
小・中学校

教育総務課

を育成するため、言語環境を整え充実すること、あわせて、言語能力を向上させる読書活動を充実することが重要であると示されています。今後は、単に本の好きな子どもを育てるというだけでなく、生涯にわたって学び続けるための読書力と読書の習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により、さまざまな図書に触れる機会を確保する等、学校図書館が担う役割はますます重要なものとなります。

## ア 司書教諭の配置

### 現状と課題

司書教諭は、12 学級以上の学校に配置することが義務付けられており、配置状況は次のとおりです

#### ○司書教諭の配置状況

(H28.5.1 現在)

	学校 総 数	12 学級以 上の 学校数	司書教諭を配置し ている学校数		
			12 学級 以上	11 学級 以下	
実績値	小学校	9	5	5	1
H29 年度	中学校	8	0	0	3
実績値	小学校	9	5	5	0
R02 年度	中学校	8	1	1	3

司書教諭は、児童・生徒への読書指導と学習情報の充実を推進する中核的役割が期待されております。多くの学校に司書教諭の免許を持つ教員が在籍しているものの、配置義務のない 11 学級以下の学校では司書教諭を配置していない学校が多く、引き続き検討が必要です。また、学校図書館教育担当や司書教諭は担任業務等と兼務しているため、読書指

での読書や、読み聞かせに役立てています。子育て支援センターや保育園等と連携し、出前おはなし会を実施している図書館もあります。

小学校や中学校から、授業に必要な資料の依頼や、レファレンス（学習・調査・研究を行う上で必要な文献や情報の支援）を実施しています。小学校で朝読書の時間などに読み聞かせをしている市立図書館もあります。

また、南砺市教育センターの学校司書研修に市立図書館職員も参加し、各学校の司書教諭（※10）や学校図書館担当職員（学校司書）と連携を図り、また、市立図書館のオンライン会議を定期的に開催しており、情報共有を図っています。

### 今後の取組

#### ○各施設と市立図書館との連携

項 目	目標値 (令和 11 年 度)	実績値		
		令和 4 年 度	令和 5 年 度	
なんと！みらい文庫貸出冊数	保育園・認定こども園	10,321 冊	9,317 冊	
授業に必要な本の団体貸出	小学校・義務教育学校（前期課程）	5,000 冊(※u)	4,433 冊	5,196 冊
オンライン会議	市立図書館・学校図書館	2,100 冊(※v)	1,380 冊	1,212 冊

・今後も各施設と連携し、子育て関連図書も含めた団体貸出や「なんとみらい文庫(団体貸出)」、市立図書館以外の施設での読み聞かせを拡充します。

小・中学校

教育総務課  
小・中学校

導など司書の役割を十分果たすことができない状況です。

**今後の取り組み**

		学校 総数	12 学級 以上の 学校数	司書教諭を配置して いる学校数	
				12 学級 以上	11 学級以 下
目標 値 (R8年 度)	小学校	7	4	4	0
	中学校	6	0	0	3
	義務教育 学校	2(予 定)	0	0	0

・司書教諭は、市が配置する学校図書館担当職員（学校司書）と連携しながら、子どもの読書活動推進への取り組みができるよう、南砺市教育センターの研修会の参加や、他校の司書教諭との情報交換を実施し、資質の向上を図ります。

**イ 学校図書館担当職員の配置**

**現状と課題**

すべての小学校と中学校に学校図書館担当職員（学校司書）が配置されており、司書教諭と連携・協力して学校図書館の運営に携わっています。

しかし、多くの学校において、学校図書館担当職員（学校司書）が複数の学校を兼務しており、図書館業務に必要な時間を確保することが課題となっています。また、学校図書館担当職員（学校司書）においては、児童・生徒や教職員の資料要求にも応えられる専門性が必要ですが、研修などへの参加率が低く、各学校での実践が共有されてい

- ・司書教諭や学校図書館担当職員（学校司書）と連携を強化し、各担当が学校図書館を通じて市立図書館を利用しやすい体制をつくり、学校のニーズを把握して情報の共有化を図ります。
- ・小学校の授業や課外学習を利用して、読み聞かせを実施することで本の魅力を知ってもらい、市立図書館利用や読書につながります。
- ・市立図書館と学校図書館（司書教諭や学校図書館担当職員（学校司書））との連携会議を定期的開催します。
- ・「南砺市型学校司書モデル事業」を継続し、市立図書館への利用を促します。
- ・高等学校と連携し、市立図書館の利用を促進し、読書の普及に努めます。

※10 司書教諭：学校図書館の専門知識をつかさどる司書教諭は教諭をもって充てるという規定がある

**(2)-③学校における子どもの読書活動の推進**

学校では、従来から学校図書館の利用指導や読書活動、国語科などの学習や朝読書などの活動を通じて児童・生徒の読書指導を行っており、学校図書館は子どもの読書習慣の形成に大きな役割を果たしています。

学校図書館について新学習指導要領では、学習の基盤となる言語能力を育成するため、言語環境を整え充実すること、あわせて、言語能力を向上させる読書活動を充実することが重要であると示されています。今後は、単に本の好きな子どもを育てるというだけでなく、生涯にわたって学び続けるための読書力と読書の習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により、さまざまな図書に触れる機会を確保する等、学校図書館が担う役割はますます重要なものとなります。

教育総務課  
小・中学校

ません。

### 今後の取り組み

項目	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
学校司書研修参加人数	11人(※w)	8人	7人
オリエンテーションの実施	15校(※x)	1校	15校

※w : 11人 =令和2年度学校図書館担当職員(学校司書)の全人数の値

※x : 15校 =7小学校+6中学校+2義務教育学校(予定)

- ・学校図書館担当職員(学校司書)の情報交換や研修へ参加する機会を増やし、資質の向上を図ります。また、図書の管理だけでなく、読書の啓発活動にも取り組みます。
- ・「南砺市型学校司書モデル事業」を実施し、市立図書館と情報を共有するとともに、学校図書館の充実を図ります。

### ウ 学校図書館資料の充実

#### 現状と課題

学校図書館は、文部科学省の「学校図書館図書標準(平成5年)」に基づき、整備すべき蔵書数が定められています。南砺市では、17校中14校がその標準を達成しています。

しかし、学校図書館図書標準に達成している学校であっても古い本が多く、子どもたちが利用できる資料が十分ではありません。

また、「ふるさと教育」に必要な郷土資料は、南砺市教育センターが発行している資料を活用していますが、今後も「ふるさと教育」を進めていく上で、新たな郷土資料の作成や、更新も必要です。

学校図書館貸出冊数について、情報メディアの普及や子どもの生活様式の変化が少なからず影響し、読書量が減少していると考えられます。今後、日常的に読書に親しむ児童・生徒の指導や育成が課題です。

### ア 学校図書館資料の充実

#### 現状と課題

学校図書館は、文部科学省の「学校図書館図書標準(平成5年)」に基づき、整備すべき蔵書数が定められています。南砺市では、16校中10校がその標準を達成しています。

しかし、学校図書館図書標準に達成している学校であっても古い本が多く、子どもたちが利用できる資料が十分ではありません。

また、「ふるさと教育」に必要な郷土資料は、南砺市教育センターが発行している資料を活用していますが、今後も「ふるさと教育」を進めていく上で、新たな郷土資料の作成や、更新も必要です。

学校図書館貸出冊数について、情報メディアの普及や子どもの生活様式の変化が少なからず影響し、読書量が減少していると考えられます。今後、日常的に読書に親しむ児童・生徒の指導や育成が課題です。

○学校図書館図書標準の達成状況

(R06.3.31 現在)

### イ 司書教諭、学校図書館担当職員の配置

#### 現状と課題

司書教諭は、12学級以上の学校に配置することが義務付けられています。司書教諭は、児童・生徒への読書指導と学習情報の充実を推進する中核的役割が期待されており、多くの学校に司書教諭の免許を持つ教員が在籍しているものの、配置義務のない11学級以下の学校では司書教諭を配置していない学校が多く、引き続き検討が必要です。また、学校図書館教育担当や司書教諭は担任業務等と兼務しているため、読書指導など司書の役割を十分果たすことができない状況です。

学校図書館担当職員(学校司書)は、すべての小・中・義務教

教育総務課  
小・中学校

**今後の取り組み**

○学校図書館図書標準の達成状況 (H28.5.1 現在)

		学校 総数	25～ 50%未 満	50～ 75%未 満	75～ 100%未 満	達成し ている
目標値 (R08年 度)	小学校	7	0	0	0	7
	中学校	6	0	0	0	6
	義務教育 学校	2(予 定)	0	0	0	2
実績値 H29年度	小学校	9	0	1	0	8
	中学校	8	0	0	2	6
実績値 R02年度	小学校	9	0	1	0	8
	中学校	8	0	2	0	6

※学校図書館図書標準計算式

小学校

中学校

学級 数	蔵書冊数(冊)	学級 数	蔵書冊数(冊)
1	2,400	1～2	4,800
2	3,000	3～6	4,800+640×(学級数 -2)
3～6	3,000+520×(学級数 -2)	7～ 12	7,360+560×(学級数 -6)

育学校に配置されており、司書教諭と連携・協力して学校図書館の運営に携わっています。

しかし、多くの学校において、学校図書館担当職員(学校司書)が複数の学校を兼務しており、図書館業務に必要な時間を確保することが課題となっています。また、学校図書館担当職員(学校司書)においては、児童・生徒や教職員の資料要求にも応えられる専門性が必要ですが、研修などへの参加率が低く、各学校での実践が共有されていません。

**今後の取組**

○司書教諭の配置状況

(R06.3.31 現在)

		学校 総数	12学級 以上の 学校数	司書教諭を配置してい る学校数	
				12学級 以上	11学級以下
目標値 (R11 年度)	小学校	6			
	中学校	5			
	義務教育 学校	3			
実績値 (R5年 度)	小学校	8	5	5	3
	中学校	7	0	0	7
	義務教育 学校	1	0	0	1

項 目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
学校司書研修参加人数	11人(※w)	10人	11人
オリエンテーションの実施	15校(※x)	16校	16校

・司書教諭は、市が配置する学校図書館担当職員(学校司書)と

教育総務課  
小・中学校

7～ 12	$5,080+480 \times (\text{学級数}-6)$	13～ 18	$10,720+480 \times (\text{学級数}-12)$
13～ 18	$7,960+400 \times (\text{学級数}-12)$	19～ 30	$13,600+320 \times (\text{学級数}-18)$
19～ 30	$10,360+200 \times (\text{学級数}-18)$	31～	$17,440+160 \times (\text{学級数}-30)$
31～	$12,760+120 \times (\text{学級数}-30)$		

○児童・生徒一人当たりの月平均学校図書館貸出冊数

	目標値 (R08年度)	実績値	
		H29年度	R02年度
小学校・義務教育学校 (前期課程)(児童)	8.0冊	5.0冊	4.5冊
中学校・義務教育学校 (後期課程)(生徒)	2.0冊	0.4冊	0.5冊

※R08年度目標値は、南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)計画目標値に準じる

- ・学校図書館図書標準に達成していない学校については、引き続き蔵書の整備に努めます。
- ・図書の購入にあたっては、児童・生徒、教員等の意見を参考に良書とともに必要図書を選定し、紙芝居なども含め子どもたちが幅広いジャンルから本を選び、多くの図書に触れる機会をもてるよう、蔵書の充実に努めます。
- ・郷土に関する本では、特に子ども向けのものが少ないため、子ども

連携しながら、子どもの読書活動推進への取り組みができるよう、情報交換や研究会、研修等への参加を推進し、資質の向上を図ります。

- ・学校図書館担当職員(学校司書)の情報交換や研修へ参加する機会を増やし、資質の向上を図ります。また、図書の管理だけでなく、読書の啓発活動にも取り組みます。
- ・「南砺市型学校司書モデル事業」を実施し、市立図書館と情報を共有するとともに、学校図書館の充実に努めます。

### ア 学校図書館資料の充実

#### 現状と課題

学校図書館は、文部科学省の「学校図書館図書標準(平成5年)」に基づき、整備すべき蔵書数が定められています。南砺市では、16校中10校がその標準を達成しています。

しかし、学校図書館図書標準に達成している学校であっても古い本が多く、子どもたちが利用できる資料が十分ではありません。

また、「ふるさと教育」に必要な郷土資料は、南砺市教育センターが発行している資料を活用していますが、今後も「ふるさと教育」を進めていく上で、新たな郷土資料の作成や、更新も必要です。

学校図書館貸出冊数について、情報メディアの普及や子どもの生活様式の変化が少なからず影響し、読書量が減少していると考えられます。今後、日常的に読書に親しむ児童・生徒の指導や育成が課題です。

#### 今後の取組

○学校図書館図書標準の達成状況 (R06.3.31現在)

教育総務課  
小・中学校

でもわかる資料づくりに努めます。  
 ・継続的な蔵書の入れ替えを実施し、よい本と出会う機会を増やします。  
 ・環境を整備し、利用しやすい学校図書館を目指し、児童・生徒1人当たりの月平均学校図書貸出冊数の目標値の達成に努めます。

**エ 学校図書館資料の蔵書管理システム化**

**現状と課題**

小学校は9校中6校、中学校は8校中3校で図書館資料の貸し出し・返却等をシステム化（※12）しています。

**今後の取り組み**

○学校図書館の蔵書管理システム状況 (H28.5.1 現在)

		学校数	システム化	データベース化 (※13)
目標値 (R08年度)	小学校	7	7	0
	中学校	6	6	0
	義務教育学校	2(予定)	2	0
実績値 H29 年度	小学校	9	5	4
	中学校	8	3	5
実績値 R02年度	小学校	9	6	3
	中学校	8	3	5

・学校と学校、学校と市立図書館の蔵書のネットワーク化を図ります。  
(共通システム化)

		学校 総数	25～ 50%未 満	50～ 75%未 満	75～ 100%未 満	達成 して いる
目標値 (R11年 度)	小学校	6	0	0	0	6
	中学校	5	0	0	0	5
	義務教育 学校	3	0	0	0	3
実績値 R04年度	小学校	8	0	1	0	7
	中学校	7	0	0	2	5
	義務教育 学校	1	0	0	0	1
実績値 R05年度	小学校	8	0	1	2	6
	中学校	7	0	1	3	3
	義務教育 学校	1	0	0	0	1

教育総務課  
小・中学校

※学校図書館図書標準計算式

小学校		中学校	
学級 数	蔵書冊数(冊)	学級 数	蔵書冊数(冊)
1	2,400	1～2	4,800
2	3,000	3～6	4,800+640×(学級 数-2)
3～6	3,000+520×(学級 数-2)	7～ 12	7,360+560×(学級 数-6)
7～ 12	5,080+480×(学級 数-6)	13～ 18	10,720+480×(学級 数-12)

※12 システム化：コンピュータシステムを活用し、資料の貸し出しや返却を行う

※13 データベース化：蔵書をデータ入力し、管理を行う

### オ 学校における読書指導の充実

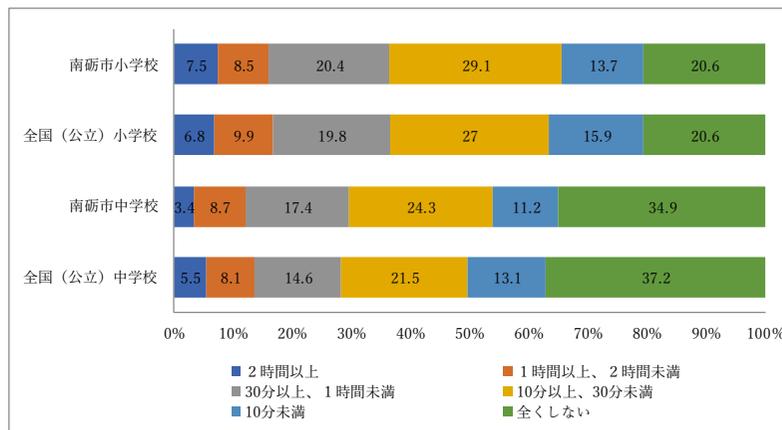
#### 現状と課題

これまで多くの学校では、児童・生徒が読書の習慣を身に付けるために、朝の読書活動を実施していました。しかし、現在では学校の特色を打ち出し、朝の読書の代わりに、教科学習や朝清掃等、多様な活動が行われている傾向があります。学校によって取り組みには多様性があり、特に中学生の読書時間の確保が課題となっています。また、学校の図書委員会による本の紹介、ボランティアグループによる読み聞かせ、学校による読書週間の設定などを実施しています。

しかし、各学校での取り組みが担当者任せになっており、学校間の情報交換ができていません。

授業時間以外に（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

資料：令和3年全国学力・学習状況調査



13～18	$7,960+400 \times (\text{学級数}-12)$	19～30	$13,600+320 \times (\text{学級数}-18)$
19～30	$10,360+200 \times (\text{学級数}-18)$	31～	$17,440+160 \times (\text{学級数}-30)$
31～	$12,760+120 \times (\text{学級数}-30)$		

#### ○児童・生徒一人当たりの月平均学校図書館貸出冊数

	目標値 (R11年度)	実績値	
		R04年度	R05年度
小学校・義務教育学校(前期課程)(児童)	冊	2.7冊	3.2冊
中学校・義務教育学校(後期課程)(生徒)	冊	0.5冊	0.6冊

- ・学校図書館図書標準に達成していない学校については、引き続き蔵書の整備に努めます。
- ・図書の購入にあたっては、児童・生徒、教員等の意見を参考に良書とともに必要図書を選定し、紙芝居なども含め子どもたちが幅広いジャンルから本を選び、多くの図書に触れる機会をもてるよう、蔵書の充実に努めます。
- ・郷土に関する本では、特に子ども向けのものが少ないため、子どもでもわかる資料づくりに努めます。
- ・継続的な蔵書の入れ替えを実施し、よい本と出合う機会を増やします。
- ・環境を整備し、利用しやすい学校図書館を目指し、児童・生徒

教育総務課  
小・中学校

### 今後の取り組み

- ・授業や課外活動の中で、学校図書館を積極的に利用し、委員会活動や教職員の工夫によって、読書に対する興味・関心を高めます。
- ・保護者と協力し、「ファミリー読書」の推進に努めます。
- ・読書力や学習情報の収集力を高めるために、引き続き読書環境の改善や工夫を行い、研修を実施するなどして、読書に対する児童・生徒の意識が向上するよう、効果的な指導に努めます。
- ・南砺市教育センターと連携を図り、司書教諭等の情報交換の機会を設けます。

### カ 関係機関との連携

#### 現状と課題

毎年、市立図書館から各学校に調べ学習のため、団体貸出利用依頼を配布し、学校図書館の資料が不足する場合に貸し出ししています。しかし、学校と学校、学校と市立図書館のネットワークが確立していないため、情報が共有できません。

#### 今後の取り組み

項目	目標値 (令和8年度)	実績値	
		平成29年度	令和2年度
調べ学習による 団体貸出冊数	750冊(※y)	534冊	733冊

※y : 750冊 =15校(小学校、中学校、義務教育学校数)×50冊/校

- ・どの地域においても、市立図書館の団体貸出やレファレンスサービスを受けられるよう、連携していきます。
- ・学校と学校、学校と市立図書館で、情報交換や研修の機会を設けます。

1人当たりの月平均学校図書貸出冊数の目標値の達成に努めます。

### エ 学校図書館資料の蔵書管理システムの活用

#### 現状と課題

小・中、義務教育学校は全14校において、図書館資料の貸し出し・返却等をシステム化(※11)及び、市立図書館と共通システム化が図られ、ネットワーク化が図られています。

#### 今後の取組

○学校から市立図書館の本の予約件数

	目標値 (R11年度)	実績値	
		R04年度	R05年度
小学校・義務教育学校 (前期課程)(児童)	冊	冊	冊
中学校・義務教育学校 (後期課程)(生徒)	冊	冊	冊

- ・GIGAスクール構想による一人1台タブレットを有効に活用し、学校図書館の資料の充実に努めます。

※11 システム化：コンピュータシステムを活用し、資料の貸し出しや返却を行う

### オ 学校における読書指導の充実

#### 現状と課題

中央図書館

## (2)-④ 社会全体における子どもの読書活動の推進

子どもと本を結ぶには、市立図書館と関係機関・地域との連携や協力が必要です。

読書が子どもの楽しみとなり、学習にも効果的に利用されるよう、市立図書館と地域・学校で連携を図り、社会全体で読書に関する理解を高めるよう努めます。

### ア 地域ボランティアの協力

#### 現状と課題

ボランティアグループは市立図書館、保育園等や小学校で読み聞かせを行っており、活躍の場が広がっています。読書に関する読み聞かせ以外のイベントも、ボランティアグループが参画することで内容の充実が図られるため、子どもの読書を支援する人材がますます必要になってきています。

しかし、ボランティアグループの活動は各地域に限られており、情報を共有できていません。今後、各地域のボランティアグループや、個人での活動を希望するボランティアの情報交換等の場を設けることも必要です。

#### ◆ボランティアグループの取り組み事例

- ・市立図書館で読み聞かせおはなし会
- ・市立図書館でイベントの実施（こども読書週間(春)、母の日、七夕、夏休み、  
図書館まつり(秋)、クリスマス、ひなまつりには工作会も実施)
- ・小学校の各クラスで、毎月1回15分程度、読み聞かせや朗読を実施
- ・交流センター、保育園等、子育て支援センター、児童館、放課後児童クラブ等で絵本や紙芝居の読み聞かせやペープサート(※14)を実施

これまで多くの学校では、児童・生徒が読書の習慣を身に付けるために、朝の読書活動を実施していました。しかし、現在では学校の特色を打ち出し、朝の読書の代わりに、教科学習や朝清掃等、多様な活動が行われている傾向があります。学校によって取り組みには多様性があり、特に中学生の読書時間の確保が課題となっています。また、学校の図書委員会による本の紹介、ボランティアグループによる読み聞かせ、学校による読書週間の設定などを実施しています。

しかし、各学校での取り組みが担当者任せになっており、学校間の情報交換ができていません。

授業時間以外に（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

資料：令和5年全国学力・学習状況調査

授業時間以外に（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

資料：令和5年全国学力・学習状況調査



#### 今後の取組

- ・授業や課外活動の中で、学校図書館を積極的に利用し、委員会活動や教職員の工夫によって、読書に対する興味・関心を高めます。
- ・保護者と協力し、「ファミリー読書」の推進に努めます。
- ・読書力や学習情報の収集力を高めるために、引き続き読書環境の改善や工夫を行い、研修を実施するなどして、読書に対する

中央図書館

中央図書館

**今後の取り組み**

- ・市立図書館から研修等の情報を提供し、子どもの読書活動のために必要な知識や技能を有するボランティアの育成と新規会員の募集に努めます。
- ・ボランティアグループの情報交換の機会を設け、市立図書館でも情報を共有して関係施設に地域のボランティアグループを紹介するなど、活躍の場を広げるよう努めます。

※14 **ペープサート**：紙に人物等描いて切り抜いたものに棒を付け、背景の前で動かして演じること

**イ 地域の連携・協力**

**現状と課題**

地域における子どもの読書活動の推進を図るためには、各地域にあったサービスの展開が必要です。

**今後の取り組み**

ボランティアグループ		目標値 (令和8年度)	実績値	
			平成29年度	令和2年度
福光	おはなしまんまる	11人	10人	11人
	おはなしJA夢	10人	13人	10人
城端	虹の会	8人	8人	8人
平	フラットb	3人	5人	3人
井波	ピッコログループ	9人	9人	9人
	つばきの会	6人	5人	6人
福野	本でこんにちは	8人	10人	8人
合計		55人	60人	55人

○団体別ボランティアグループの人数

- 児童・生徒の意識が向上するよう、効果的な指導に努めます。
- ・南砺市教育センターと連携を図り、司書教諭等の情報交換の機会を設けます。

**カ 関係機関との連携**

**現状と課題**

市立図書館では、学校と市立図書館の共通システム化により、授業等に必要資料が不足する場合に貸出ししています。

また、市立図書館職員やボランティアが学校へ訪問して、読み聞かせを行っています。

**今後の取組**

項目	目標値 (令和11年度)	実績値	
		令和4年度	令和5年度
調べ学習による 団体貸出冊数	750冊(※y)	912冊	1,273冊

- ・どの地域においても、市立図書館のレファレンスサービスを受けられるよう、連携していきます。
- ・学校間についても、定期的に情報交換や研修の機会を設けるよう努めます。

**(2)-④社会全体における子どもの読書活動の推進**

子どもと本を結ぶには、市立図書館と関係機関・地域との連携や協力が必要です。

読書が子どもの楽しみとなり、学習にも効果的に利用されるよう、市立図書館と地域・学校で連携を図り、社会全体で読書に関する理解を高めるよう努めます。

中央図書館

※目標値(令和8年度)は、令和2年度実績とする

- ・各地域の特性を尊重しながら、地域の実情に即した施策を展開するため、市立図書館と関係施設、地域ボランティアとの連携・協力体制の充実に努めます。

## ア 地域ボランティアの協力

### 現状と課題

ボランティアグループは市立図書館、保育園等や小学校で読み聞かせを行っており、活躍の場が広がっています。読書に関する読み聞かせ以外のイベントも、ボランティアグループが参画することで内容の充実が図られるため、子どもの読書を支援する人材がますます必要になってきています。

しかし、ボランティアグループの活動は各地域に限られており、情報を共有できていません。今後、各地域のボランティアグループや、個人での活動を希望するボランティアの情報交換等の場を設けることも必要です。

### ◆ボランティアグループの取り組み事例

- ・市立図書館で読み聞かせおはなし会
- ・市立図書館でイベントの実施（こども読書週間(春)、母の日、七夕、夏休み、図書館まつり(秋)、クリスマス、ひなまつりには工作会も実施)
- ・小学校の各クラスで、毎月1回 15分程度、読み聞かせや朗読を実施
- ・交流センター、保育園等、子育て支援センター、児童館、放課後児童クラブ等で絵本や紙芝居の読み聞かせやペープサート(※13)を実施

### 今後の取組

中央図書館

ボランティアグループ		目標値 (令和11年度)	実績値	
			令和4年度	令和5年度
福光	おはなしまんまる	11人	11人	11人
	おはなしJA夢	10人	8人	7人
城端	虹の会	8人	8人	9人
平	フラットb	3人	4人	5人
井波	ピッコログループ	9人	6人	8人
	つばきの会	6人	6人	6人
福野	本でこんにちは	8人	10人	8人
合計		55人	53人	56人

- ・市立図書館から研修等の情報を提供し、子どもの読書活動のために必要な知識や技能を有するボランティアの育成と新規会員の募集に努めます。
  - ・ボランティアグループの情報交換の機会を設け、市立図書館でも情報を共有して関係施設に地域のボランティアグループを紹介するなど、活躍の場を広げるよう努めます。
  - ・ボランティアグループの育成や、研修への参加支援に努めます。
- ※13 **ペーパーサート**：紙に人物等描いて切り抜いたものに棒を付け、背景の前で動かして演じること

#### イ 関係機関の連携・協力

##### 現状と課題

地域における子どもの読書活動の推進を図るためには、各地域にあったサービスの展開が必要です。

##### 今後の取組

○施設別読み聞かせ回数と参加人数 (R06.3.31 現在)

団体名	図書館 (R05)		保育園・ 認定こども園 (R05)		子育て支援 センター (R05)		小学校 (R05)		児童館・放 課後児童 クラブ (R05)	
	回数	延べ 人数	回数	延べ 人数	回数	延べ 人数	回数	延べ 人数	回数	延べ 人数
おはなし まんまる	8 回	100 人	/	/	2 回	30 人	/	/	/	/
おはなし JA 夢	/	/	/	/	/	/	37 回	723 人	/	/
虹の会	9 回	78 人	/	/	/	/	/	/	/	/
フラット b	/	/	35 回	47 人	/	/	/	/	/	/
ピッコロ グループ	9 回	75 人	/	/	9 回	111 人	15 回	1,00 0人	/	/
つばきの 会	9 回	45 人	26 回	164 人	/	/	75 回	1,43 8人	20 回	163 人
本でこん にちは	37 回	159 人	/	/	/	/	11 回	644 人	/	/

・各地域の特性を尊重しながら、地域の実情に即した施策を展開するため、市立図書館と関係施設、地域ボランティアとの連携・協力体制の充実に努めます。

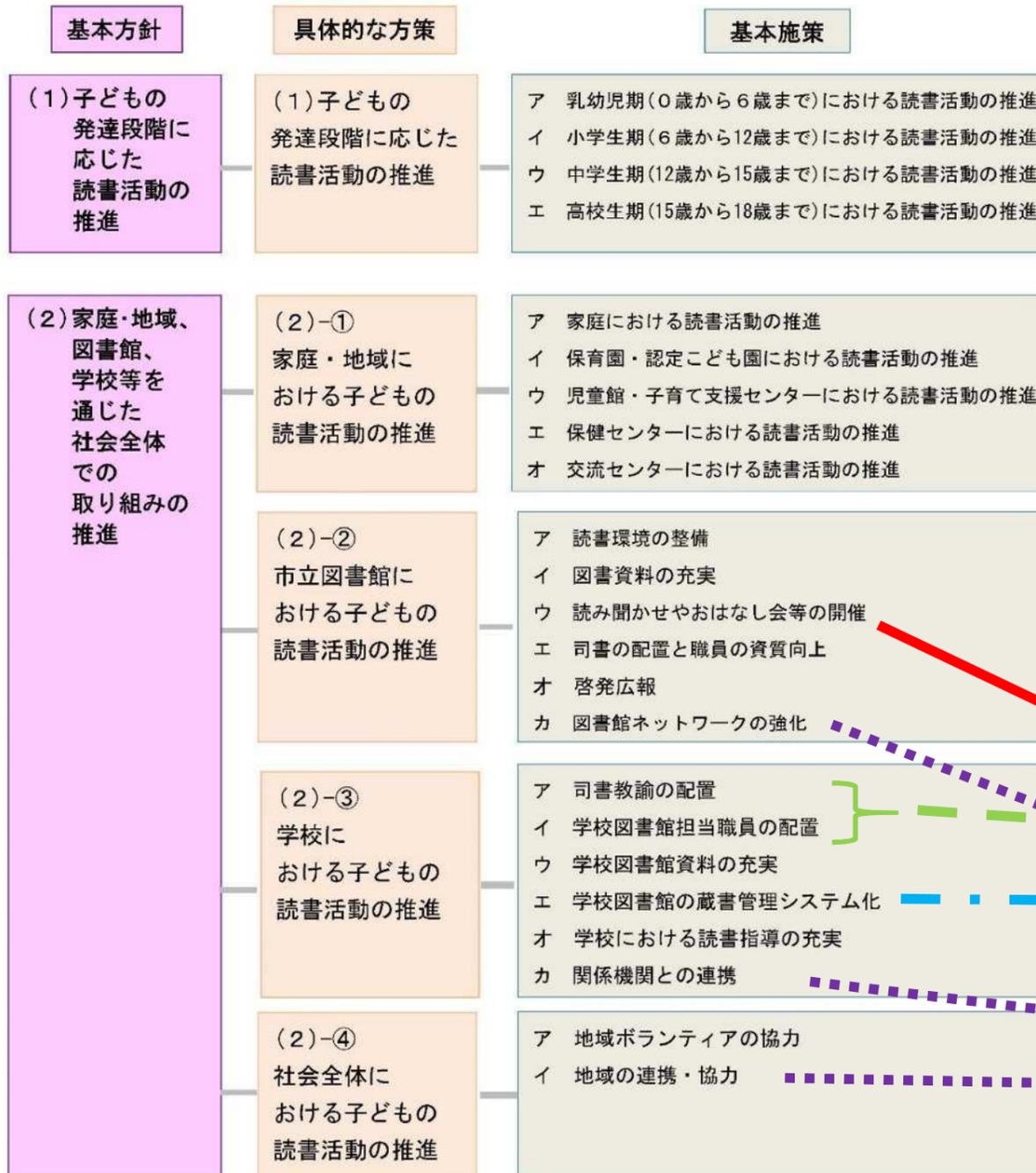


# 別紙 第4次

## 3 計画の体系

### 第4次南砺市子ども読書活動推進計画体系

子どもの読書活動の推進のため、目指すべき方向を、次の2つの基本方針とし、その具体的な方策、更にその基本施策に基づき推進します。



# 第5次 案

## 3 計画の体系

### 第5次南砺市子ども読書活動推進計画体系

子どもの読書活動の推進のため、目指すべき方向を、次の2つの基本方針とし、その具体的な方策、更にその基本施策に基づき推進します。

